30th Anniversary

木曽広域消防本部

30周年記念誌

KISO FIRE DEPT.

目　　次

□ ご挨拶 ・・・・・・・・・・・・　１ ～ ２

□ 構成町村 ・・・・・・・・・・　３ ～ ４

□ 消防本部のあゆみ ・・　５ ～ 19

□ 業務紹介 ・・・・・・・・・・ 20 ～ 28

□ 御嶽山噴火災害 ・・・・ 29 ～ 34

□ 庁舎･車両紹介 ・・・・・ 35 ～ 40

□ 資料 ・・・・・・・・・・・・・・ 41 ～ 48

木曽広域消防本部
発足30周年記念誌に寄せて

木曽広域連合
連合長　原　久仁男
（木曽町長）

木曽広域消防本部発足３０周年という歴史を重ねてきていただいたことに感謝を申し上げ、先人も含めて職員をはじめ関係された皆さんに心より敬意と感謝を申し上げます。

私自身も広域消防本部発足時に木曽福島町の消防主任であり、消防施設の点検業務などずいぶんとお世話になったことを覚えています。また広域連合副管理者在職中には、消防本部の県内１本化などの動きがあり、県内の組織のありようが大きく異なっていたことに大きな驚きを感じ勉強させていただきました。

消防本部は救急搬送が件数的には圧倒的に多いわけですが、火山噴火による捜索があり、火災への消火活動や水中捜索など多種にわたっての任務があります。それ故に隊員におかれては日常的にそれらの知識の習得や体力の維持などご苦労が大きいと思います。子供たちがあこがれの職場でもあります。今後も木曽地域のみなさんの安心と安全確保のため全力で任務にあたっていただくことを心からお願いします。ますますの活躍を期待しています。

常備消防発足30周年を迎えて

木曽広域消防本部
消防長　谷口　利則

　このたび、木曽広域消防本部では、発足30周年という節目の年を迎え、消防の足跡を記録した記念誌を発刊することとなりました。当消防本部は、木曽郡11ヶ町村を管轄する前身の木曽郡救急隊から、平成３年４月に１本部１署２分署、職員数51名でスタートし、その後の町村合併で、管轄する木曽郡６町村と塩尻市楢川地区の消防事務を受託し、現在は職員数68名体制で消防団と連携しながら、住民の安全と安心のため、日々活動を行っているところです。

　この間、先輩諸兄のたゆまぬ努力により改革や整備が行われ、今日の消防体制が構築されてきた、そのご功績に深い感謝と敬意を表します。

　近年、全国各地で大規模な自然災害が発生し、被害が増大しています。当消防本部でも平成26年に御嶽山噴火災害が発生し、58名の尊い命が奪われ、5名の方々が行方不明となっています。また、大型台風や集中豪雨などの災害が発生するなど、消防の取り巻く環境が変化していく中、私たち消防職員は、熱意と誠意をもって、木曽地域の安全、安心に向け邁進してまいります。

　結びに、関係各位の多大なるご尽力に対しまして、感謝を申し上げるとともに、今後も消防体制の充実強化に努めてまいりますので、ご支援とご協力をお願いして、発足30周年の挨拶とさせていただきます。

構 成 町 村

木曽広域消防本部は、木曽郡６町村（木曽町・上松町・南木曽町・木祖村・王滝村・大桑村）から構成され、小説家・島崎藤村の『夜明け前』の冒頭「木曽路はすべて山の中である。」のとおり、緑豊かな山間の地域を管轄している消防本部です。

管轄地域は木曽郡内６町村と塩尻市楢川地区を消防業務受託地域として管轄し、管轄総面積は1663.99㎢とおおよそ香川県と同じ面積になり、県下消防本部の中で３番目に広い面積を職員総数68名体制で管轄しています。

総面積　476.03㎢
総人口　10,355人
世帯数　4,707戸
消防団員　317名

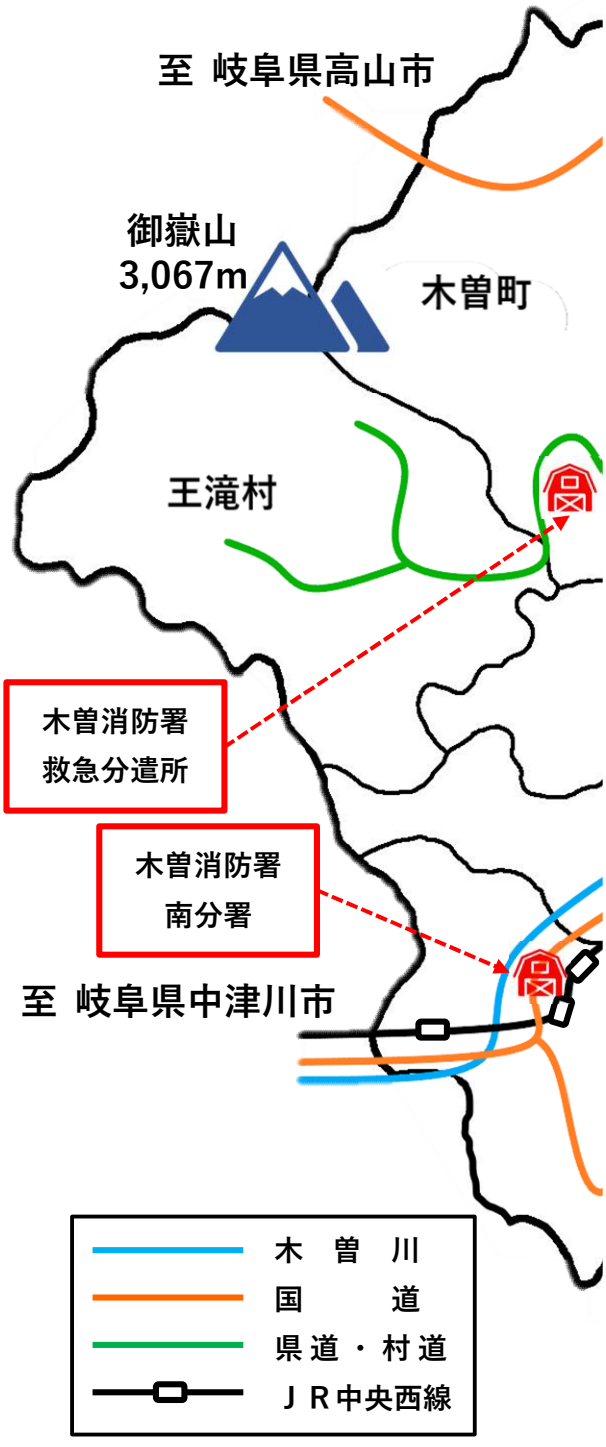
木曽町は、平成17年に４町村(木曽福島町･日義村･開田村･三岳村)が合併して誕生した長野県内最大面積の町です。江戸時代には中山道の宿場『福島宿』として栄え、四季折々の風景や各地域の歴史、伝統文化、特産物など多くの見どころがあります。

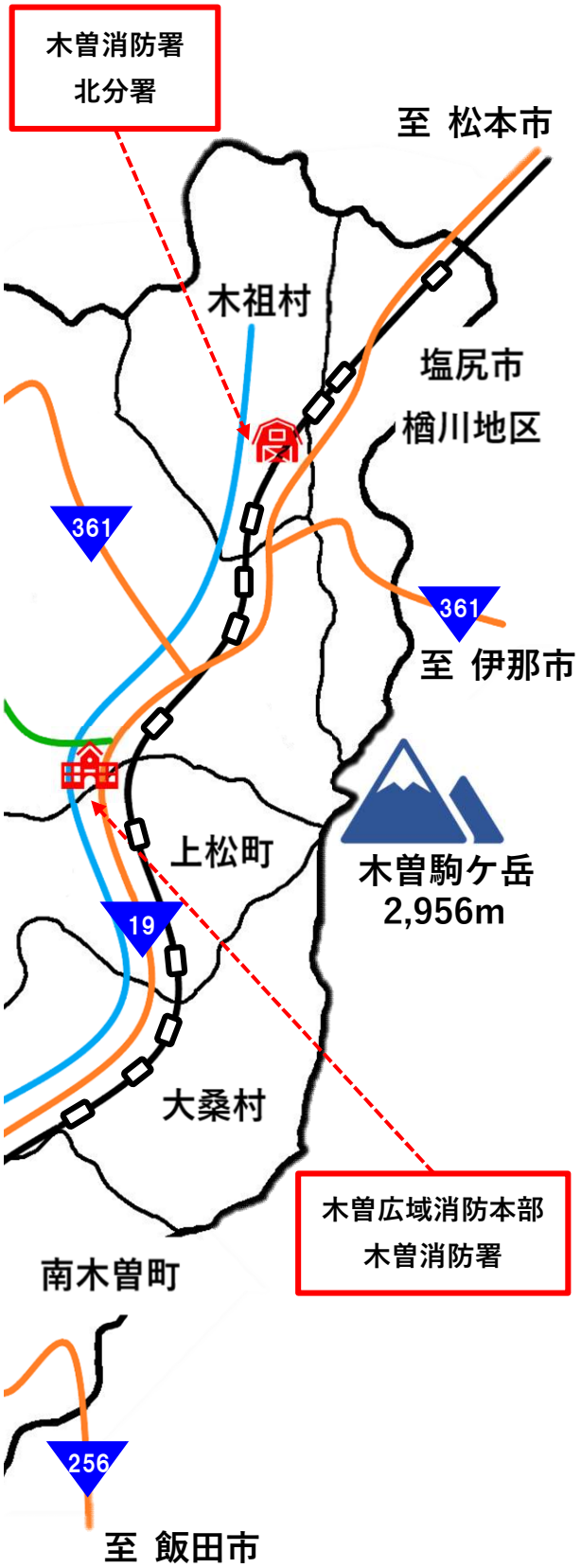
総面積　168.42㎢
総人口　4,015人
世帯数　1,692戸
消防団員　150名

上松町は、「ひのきの里」とも呼ばれており、木材産業が中心です。中でも赤沢自然休養林で伐採した『木曽ヒノキ』は、三重県伊勢神宮の社殿に使われています。また、世界初の森林セラピー基地や赤沢森林鉄道を擁する、森林と関わり深い緑の町です。

総面積　215.93㎢
総人口　3,854人
世帯数　1,609戸
消防団員　278名

南木曽町は、木曽郡の南端に位置し、郡内町村の中で最も温暖な町です。町内には中京圏を結ぶ国道19号線、飯田市を結ぶ国道256号線が走り、古くから郡内交通の要所となっており、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている『妻籠宿』には、世界中から多くの観光客が訪れます。





旧 楢川村 は、平成17年の市町村合併により塩尻市に編入しました。合併後、塩尻市楢川地区を消防業務受託地域として管轄しています。

総面積	476.03㎢
総人口	2,279人
世帯数	976戸
消防団員	120名

木祖村 は、木曽郡の北端に位置しており、郡内の中心を縦断する『木曽川』の源流の地であることで、"木曽の祖"という意味合いを持つ村です。『やぶはら高原スキー場』や『こだまの森』、『奥木曽湖』などにおいて、様々なアウトドアレジャーが楽しめます。

総面積	140.50㎢
総人口	2,616人
世帯数	1,021戸
消防団員	165名

王滝村 は、長野県内で１番の面積を誇る村で『御嶽山』のふもとに位置します。村の気候と自然は人々の生活に関連が深く、中京圏には水資源を、関西圏には電力源を供給しています。夏は涼しく、冬はウインタースポーツが４月下旬頃まで楽しめます。

総面積	310.82㎢
総人口	712人
世帯数	370戸
消防団員	53名

大桑村 は、木曽山脈と阿寺山地に挟まれた山間の村です。最も有名な観光・レジャースポットとして『阿寺渓谷』があり、そこを流れる『阿寺川』の透明で美しい水流は「阿寺ブルー」と称され、多くの写真家や郡内・県内外から川遊びを楽しむ人々で賑わっています。

総面積	234.47㎢
総人口	3,396人
世帯数	1,520戸
消防団員	129名

※１）各地域の総人口などについては、令和３年４月１日現在の数値
※２）各市町村章については、各自治体から提供

消防本部のあゆみ

木曽広域消防本部発足前、木曽郡の消防は長年の間、各町村に消防団を設置して、火災及びその他の災害対応に当たっていた。

昭和45年、国道19号線での交通事故をはじめとする当時の木曽郡下11ケ町村の内、10町村におけるあらゆる救急要請に対応するため、同年9月16日に『木曽郡町村福祉衛生施設組合救急隊』が発足し、救急業務を専門的に行っていた。

その後、更なる経済発展により、建物の高層化や施設の広大化などによる防火対象物の増加、それに伴う火災現場の多様化と併せて、年々増加傾向にある救急活動に対応するためにも、専門の知識を有する『常備消防』の設立が強く求められるようになり、発足に至った。

木曽郡救急隊当時の庁舎（上松町に設置）

木曽郡救急隊の救急自動車

	沿　革（発足前）	社会の動き・災害等
昭和58年（1983）	2月15日　木曽郡町村消防防災担当課長会議にて、消防常備化の試案について検討 試案：設置数２署（本署１・分署１）職員定数93名 7月15日　木曽郡消防常備化研究会にて、試案５案及び設立の計画案（昭和61年4月設立）等について検討	4月15日　東京ディズニーランドが開園 9月28日　台風10号の活発な降雨により、木曽川流域において被害をもたらす。 11月29日　大韓航空機撃墜事件
昭和59年（1984）	3月6日　木曽郡消防常備化研究会にて、試案等について検討 試案：設置数３署（本署１・分署２）職員定数51名 5月30日　木曽郡消防常備化研究会にて、長野県消防防災課から消防常備化に当たっての検討事項等の説明を受ける。 7月27日　自治省消防庁で消防常備化あり方検討が進行中、方針の決定まで研究会開催を見合わせる旨の通知が発出	5月12日　日本初の衛星放送が開始 7月28日　ロサンゼルス五輪が開催 9月14日　長野県西部地震が発生震源の王滝村において甚大な被害をもたらす。
昭和61年（1986）	3月頃　木曽広域行政事務組合にて、新広域市町村圏計画の策定に伴い、広域常備消防の実現に向けた研究及び検討が再開	2月1日　『いじめ』が社会問題となる。
昭和62年（1987）	7月14日　木曽福祉行政組合救急隊を郡内北部及び南部に分駐する案と、予防査察業務の実施の可否について検討	9月9日　東北自動車道が全線開通

	沿　革（発足前）	社会の動き・災害等
昭和63年 （1988）	12月7日　木曽消防協会理事会にて、協会長から消防常備化の推進について要請を受ける。	9月17日　ソウル五輪が開催
昭和64年 平成元年 （1989）	1月13日　木曽郡町村会にて、消防常備化推進研究会の設置が決定 2月1日　木曽郡消防常備化推進研究会が開催 案：設置数３署（本署１・分署２）職員定数55名 平成3年4月1日業務開始 常任幹事（木曽福島町・南木曽町・木祖村・開田村・町村会）を選出 2月14日　町村会にて、北分署及び南分署の同一年度の設立が決定 常任幹事会にて、署の設置場所の策定を消防科学総合センターへ委託が決定 3月9日　研究会会長から、消防常備化準備事務局の体制が提案 案：準備事務局設置時期、平成元年6月頃 5月　郡内各町村と庁舎設置場所候補地及び出動体制等を協議 8月2日　消防常備化準備事務局が設置 10月26日　木曽福祉行政組合救急隊と会合を開催 12月10日　消防職員第一次試験を実施	1月8日　元号が『平成』へ改元 3月29日　少年犯罪が社会問題となる。 4月1日　消費税法が施行（税率3%）
平成２年 （1990）	1月21日　消防職員第二次試験を実施 3月2日　自治省消防庁から政令指定内示を受ける。 4月2日　常備消防準備室が発足、新規採用22名 木曽福祉行政組合救急隊13名の身分移管 自治省消防庁から政令指定告示（自治省告示第67号） 5月7日　長野県消防学校初任科へ28名入校 9月13日　木曽広域消防本部・木曽消防署庁舎新築工事起工式 10月1日　広域消防緊急情報システム整備事業の議会議決を得る。 広域消防緊急情報システム整備事業が着手 10月16日　木曽消防署南分署新築工事起工式 10月19日　木曽消防署北分署新築工事起工式 11月1日　長野県消防学校初任科卒業式 11月7日　中津川市消防本部と消防指令電話回線設置の打合せ 11月19日　消防本部発足に伴う消防協会との打合せを実施	3月18日　兵庫県長崎屋尼崎店建物火災 5月　木曽文化公園が開館 11月17日　雲仙普賢岳が噴火活動を開始
平成３年 （1991）	2月15日　恵北消防本部、山口村との協定について打合せ 2月20日　中津川市民病院及び坂下病院と救急業務に関する打合せ 2月21日　塩尻病院、上條記念病院、桔梗ヶ原病院との救急業務に関する打合せ 2月25日　各構成町村総務課長、消防団長、消防主任と合同打合せ	2月28日　新幹線300系試作車が、最高速度325.7km/hを記録 3月頃　バブル景気が崩壊

消防本部庁舎建設地の地鎮祭の様子

沿　　革

社会の動き・災害等

平成３年
（1991）

3月7日　救急自動車受納式〔全国農業協同組合連合会 寄贈〕

3月12日　消防ポンプ自動車４台を納車

3月28日　中津川市消防本部と、山口村における救急、救助業務協定書を締結

3月29日　木曽広域消防本部・木曽消防署開庁式

4月1日　木曽広域消防本部が発足

消防職員条例定数を55人とする。

新規採用職員７名、職員数51名体制【１本部・１署・２分署】

中津川市消防本部との救急、救助業務協定書に関する覚書を交換

5月18日　木曽消防署北分署が竣工【木祖村薮原873番地１】

5月30日　木曽消防署南分署が竣工【南木曽町読書3680番地１】

6月10日　木曽消防署救急分遣所設置に伴う三岳村事務担当者会議を開催

6月28日　木曽広域消防本部・木曽消防署が竣工【木曽福島町3737番地】

7月10日　木曽広域消防本部、全庁舎合同竣工式

8月頃　台ヶ峰無線中継所建設工事が着手

8月22日　消防指令車受納式〔日本損害保険協会 寄贈〕

木曽消防署へ配備

10月11日　救助工作車両受納式〔日本損害保険協会 寄贈〕

木曽消防署へ配備

4月23日　救急救命士法が公布

5月14日　信楽高原鉄道列車衝突事故

6月3日　雲仙普賢岳噴火災害

組合長による点検

建設当時の消防本部庁舎

寄贈された消防指令車

沿　　革

社会の動き・災害等

平成４年（1992）

3月17日　木曽郡下防火パレードを実施

3月27日　救急自動車受納式〔農業協同組合連合会 寄贈〕木曽消防署へ配備

4月1日　新規採用職員５名、職員数55名体制

5月28日　乙種防火管理講習会を開催

6月頃　峠山無線中継所、大桑無線中継所、上松無線電波反射板の建設工事が着手

6月23日　第11回長野県消防救助技術大会へ出場

10月6日～7日　甲種防火管理講習会を開催

10月22日　木曽消防署救急分遣所庁舎起工式

12月頃　上松無線電波反射板が完成

5月6日　県立木曽病院が移転改築後、診療を開始

7月25日　バルセロナ五輪が開催

10月16日　千葉県袖ヶ浦製油所爆発火災

寄贈された救急自動車

平成５年（1993）

1月頃　広域消防緊急情報システム整備事業、無線中継所（峠山中継所・台ヶ峰中継所・大桑中継所）が完成

1月　救急自動車納車、北分署へ更新配備

2月16日　危険物運搬車両路上検査を実施

2月28日　広域消防緊急情報システム整備事業が竣工

3月20日　木曽消防署救急分遣所庁舎竣工【三岳村9125番地4】

3月　救急自動車受納式〔農業協同組合連合 寄贈〕救急分遣所へ配備

4月1日　木曽消防署救急分遣所業務開始【１本部・１署・２分署・１分遣所】

消防職員条例定数を58人とする。

新規採用職員３名、職員数58名体制

3月25日　長野自動車道が全面開通

5月15日　プロサッカーリーグ『Ｊリーグ』が開幕

6月29日　皇太子徳仁親王殿下ご成婚

7月12日　北海道南西沖地震

平成６年（1994）

3月25日・28日　応急手当指導員講習会を開催

3月28日　中津川市消防本部と消防相互応援協定を締結

4月1日　新規採用職員３名、職員数59名体制

11月16日　南木曽町で大型観光バス事故が発生(死傷者47名)

4月26日　名古屋空港航空機墜落事故

6月27日　松本サリン事件

7月6日　神奈川県海老名市作業員寄宿舎火災

	沿　　革	社会の動き・災害等
平成７年 (1995)	 1月21日～26日　阪神･淡路大震災発生に伴い、救助隊１隊４名を派遣 4月3日　新規採用職員２名、職員数61名体制 8月9日　救急自動車納車、南分署へ更新配備 9月11日　消防指令車受納式〔日本消防協会 寄贈〕北分署へ配備	1月17日　阪神・淡路大震災 3月30日　地下鉄サリン事件 6月30日　緊急消防援助隊制度が創設
平成８年 (1996)	4月18日～23日　林野火災予防パレードを実施 6月2日　木曽福島町で連続放火事件が発生 7月31日　消防指令車納車、南分署へ新規配備 11月22日　消防本部初の救急救命士資格を取得 12月6日～16日 長野県小谷村蒲原沢で土石流災害発生に伴い、長野県消防相互応援隊(指揮隊及び救助隊、延べ39名)を派遣	2月10日　北海道豊浜トンネル崩落事故 4月12日　木曽養護学校が開校 7月19日　アトランタ五輪が開催 12月6日　蒲原沢土石流災害が発生、緊急消防援助隊の初出場となる。
平成９年 (1997)	4月1日　新規採用職員２名、職員数59名体制 5月7日　消防職員委員会の運用を開始 5月　査察広報車納車、南分署へ更新配備 8月29日　高規格救急車導入に伴い、恵北消防本部の視察を実施 12月15日　高規格救急自動車納車、木曽消防署へ新規配備	4月1日　消費税率、5%へ改定 9月25日　長野県消防防災ヘリ『アルプス』が就航
平成10年 (1998)	2月2日　高規格救急自動車の試験運用を開始 長野県立木曽病院と、救急救命士が行う救急救命処置に対する医師の指示等に関する協定書を締結 2月5日　長野冬季五輪開催に伴い、職員２名を派遣 4月1日　新規採用職員１名、職員数59名体制 救急救命士業務及び高規格救急自動車の運用開始	2月2日　郵便番号が7桁になる。 2月7日　長野冬季五輪が開催 12月17日　国道19号線上松バイパスが開通

	沿　　革	社会の動き・災害等
平成11年 (1999)	2月1日　木曽福島町で建物火災が発生し、建物５棟が焼損 4月1日　木曽広域連合が設立 設立に伴い、木曽広域行政事務組合から身分移管 消防職員条例定数を60人とする。 新規採用職員１名、職員数60名体制 5月13日　王滝村で山林火災が発生。長野県及び愛知県の消防防災ヘリの出場を要請し、消火活動にあたる。(焼損面積約12ha)	1月1日　携帯電話･PHSの電話番号が11桁になる。 8月14日　神奈川県玄倉川水難事故 10月30日　上信越自動車道が全線開通
平成12年 (2000)	3月　高規格救急自動車納車、南分署へ新規配備 3月16日　大桑村で大型観光バス事故が発生(死傷者21名) 3月29日　国民健康保険坂下病院(現：坂下診療所)と、救命士業務に係る救急救命処置等に関する協定書を締結 3月30日　中津川市消防本部と、救急、救助業務協定書及び覚書の廃止に伴い、消防相互応援協定書を再締結 7月31日　飯田広域消防本部と国道256号線清内路トンネル警防計画を作成し、確認書を取り交わす。 10月2日～5日　緊急自動車安全運転研修に参加	3月8日　地下鉄日比谷線列車脱線事故 3月31日　有珠山噴火災害 5月3日　西鉄バスジャック事件 6月26日　三宅島噴火 9月15日　シドニー五輪が開催 10月6日　鳥取県西部地震
平成13年 (2001)	5月30日　消防職員条例定数を66人とする。 9月1日　益田広域消防本部(現：下呂市消防本部)と消防相互応援協定書を締結 10月　高規格救急自動車納車、北分署へ新規配備	3月24日　芸予地震 9月1日　新宿歌舞伎町雑居ビル火災 9月4日　東京ディズニーシーが開園
平成14年 (2002)	3月21日　松本市浅間温泉で大規模山林火災発に伴い、長野県消防相互応援隊(消防隊１隊４名)を派遣 4月1日　新規採用職員２名、職員数61名体制 11月12日　救助工作車納車、木曽消防署へ更新配備	2月8日　ソルトレークシティ冬季五輪が開催。王滝村出身の越 和弘選手がボブスレーに出場し、８位に入賞する。 5月31日　FIFAワールドカップが日韓同時で開催 10月1日　三菱重工業長崎造船所火災

沿　　革

社会の動き・災害等

平成15年（2003）

3月　消防本部公用車納車、木曽消防本部へ更新配備

4月1日　新規採用職員４名、身分移管１名、職員数65名体制

7月1日　査察車納車、北分署へ更新配備

8月30日　南木曽町走行中のＪＲ中央西線列車内にて、国内初となる自損放火事件が発生(死者１名)

10月23日　指揮隊車納車、木曽消防署へ更新配備

11月26日　高規格救急自動車納車、救急分遣所へ新規配備

新型肺炎SARSが、アジアやカナダを中心に32の国と地域へ感染拡大

3月26日　包括的指示下における救急救命士の除細動器の使用が可能になる。

8月14日　ブリヂストン栃木工場火災

9月16日　愛知県名古屋市ビル立てこもり放火事件

平成16年（2004）

3月7日　南木曽町で、民間報道ヘリコプター墜落事故が発生(死者４名)

4月　消防本部庁舎北側に、警防資器材倉庫を建設

5月21日　査察車納車、木曽消防署へ更新配備

5月27日　日義村で建物火災が発生し、建物９棟が焼損

6月4日　木祖村でガスボンベ爆発事故が発生(負傷者１名)

7月1日　下呂市消防本部(旧：益田広域消防本部)と、町村合併による新市発足及び消防本部名変更に伴い、消防相互応援協定書を再締結

9月20日　資器材搬送者納車、木曽消防署へ新規配備

10月25日～28日

新潟県中越地震発生に伴い、緊急消防援助隊(救助隊、救急隊及び支援隊、延べ12名)を派遣

3月23日　救急救命士による気管挿管の実施が可能になる。

4月1日　消防組織法改正により、緊急消防援助隊が法制化

7月1日　ＡＥＤ(自動体外式除細動器)の一般市民の使用が承認

8月13日　アテネ五輪が開催

10月23日　新潟県中越地震

12月13日　埼玉県ドン・キホーテ放火事件

資器材搬送車

沿　　革

社会の動き・災害等

平成17年（2005）

2月7日　山口村の越県合併に伴い、中津川市消防本部へ防火対象物等の移管事務引継ぎを実施

2月10日　楢川村の塩尻市編入合併に伴う、塩尻市楢川地区の消防事務の受託が、議会で可決

2月13日　山口村の越県合併に伴い、中津川市消防本部へ119番通報切替えを実施

5月6日　査察車納車、南分署へ更新配備

6月7日　水難救助活動の効率化のため、救命ゴムボートを整備

6月13日　大規模災害発生時及び緊急消防援助隊派遣先野営等での使用のため、エアーテントを整備

2月13日　山口村が岐阜県中津川市へ越県合併

2月17日　中部国際空港が開港

3月10日　救急救命士による薬剤投与の実施が可能になる。

3月25日　愛知万博『愛・地球博』が開幕

4月1日　楢川村が塩尻市へ編入合併

4月25日　ＪＲ西日本福知山線脱線事故

7月1日　信州ドクターヘリ佐久の運航が開始

10月18日　予防技術資格者制度が制定

11月1日　木曽福島町・日義村・開田村・三岳村の合併により、木曽町が誕生

12月25日　ＪＲ東日本羽越線脱線事故

平成18年（2006）

1月24日　国道361号線伊那木曽連絡道路(権兵衛トンネル)の開通に伴い、伊那木曽救急医療体制調整会議を実施

1月27日　権兵衛トンネル防災訓練を伊那消防組合消防本部(現：上伊那広域消防本部)と合同実施

3月　水難救助隊が発足

4月3日　広域連合内異動により、消防本部へ１名身分移管、職員数64名体制

7月　木曽郡内各地で、活発な梅雨前線の降雨による被害が発生

7月30日　王滝村で、長野県消防ポンプ操法・ラッパ吹奏大会を開催

10月23日　長野県消防相互応援隊が木曽町に集結し、野営訓練を実施

10月24日　長野県総合防災訓練・長野県消防相互応援隊合同訓練を木曽町で実施

11月21日　聴覚障がい者を対象とした防災訓練を実施

2月4日　国道361号線伊那木曽連絡道路権兵衛トンネルが開通

2月10日　トリノ冬季五輪が開催。王滝村出身の越 和宏選手(ボブスレー)と木曽町出身の千村 格選手(スノーボードクロス)が出場

3月20日　第１回WBCで日本優勝

6月1日　新築住宅における住宅用火災警報器の設置義務化

7月　平成18年7月豪雨災害

	沿　　革	社会の動き・災害等
平成19年（2007）	2月7日　木曽広域連合消防広域化検討委員会を設置	1月20日　兵庫県カラオケボックス火災
	3月19日　消防ポンプ自動車納車、北分署へ更新配備	7月16日　新潟県中越沖地震
	8月10日　緊急消防援助隊災害派遣用資器材等保管のため、警防資器材倉庫を消防本部庁舎西側に建設	10月1日　緊急地震速報の一般提供が開始
		ゴンドラからの救出の様子
	12月15日　おんたけ2240スキー場ゴンドラ脱索事故が発生。長野県消防相互応援隊を要請し、90名を救助	
平成20年（2008）	3月26日　高規格救急車受納式〔日本損害保険協会　寄贈〕南分署へ更新配備	6月14日　岩手・宮城内陸地震
		7月11日　iPhoneの国内発売開始
		8月8日　北京五輪が開催
		10月1日　大阪府個室ビデオ店放火事件
	4月1日　新規採用職員１名、職員数64名体制 中南信地区消防広域化推進事務局へ１名派遣	
	9月22日　中南信地域消防広域化協議会が設立	
	12月15日　新型インフルエンザ対応訓練を実施	
	12月29日　王滝村で建物火災が発生、建物７棟を焼損(死者２名)	
平成21年（2009）	4月1日　新規採用職員２名、職員数66名体制	3月19日　群馬県渋川市老人ホーム火災
	9月11日　事務連絡車受納式〔木曽危険物安全協会　寄贈〕木曽消防署へ新規配置	5月21日　裁判員制度が開始
		7月5日　大阪府パチンコ店放火事件
	12月2日　国道256号清内路トンネル防災訓練を飯田広域消防本部と合同実施	9月11日　岐阜県消防防災ヘリ墜落事故
	12月24日　消防ポンプ自動車納車、南分署へ更新配備	寄贈された事務連絡車
平成22年（2010）	7月21日　中南信消防広域化ファイヤーマンズミーティングに参加	2月12日　バンクーバー冬季五輪が開催 王滝村出身の越 和宏選手(ボブスレー)が出場
		7月25日　埼玉県消防防災ヘリ墜落事故
		8月18日　海上保安庁ヘリ墜落事故
	11月25日　高規格救急自動車納車、木曽消防署へ更新配備	

沿　　革

社会の動き・災害等

平成23年（2011）

3月11日～28日
東日本大震災発生に伴い、緊急消防援助隊(救助隊及び支援隊、延べ34名)を派遣

3月28日　高規格救急自動車受納式〔ＪＡ共済 寄贈〕北分署へ更新配備

4月1日　新規採用職員２名、職員数66名体制

4月24日　木曽町で建物火災が発生、建物４棟を焼損

8月3日　三重県桑名市で開催、木曽川水系水質保全連絡協議会水質事故対策訓練に出席

12月　本部公用車納車、消防本部へ更新配備

3月11日　東日本大震災

3月12日　長野県北部地震

6月1日　すべての住宅において住宅用火災警報器の設置義務化

6月24日　小笠原諸島がユネスコ世世界自然遺産に登録

10月1日　信州ドクターヘリ松本の運航が開始

木曽町建物火災現場

平成24年（2012）

2月20日　水槽付消防ポンプ自動車納車、木曽消防署更新配備

3月1日　塩尻市楢川地区救急救助訓練を、松本広域消防局及び信州ドクターヘリと合同実施

3月8日　消防救急無線デジタル化基本設計が完了

4月2日　新規採用職員１名、職員数67名体制

4月6日　木曽町日義で建物放火事件が発生

5月31日　通信指令室にJ－ALERTを設置

7月11日　緊急消防援助隊支援資器材として、エアーテントを総務省消防庁より無償貸与を受ける

9月9日　塩尻市贄川地区合同連携訓練を、松本広域消防局及び塩尻市消防団と合同実施

10月17日　多目的支援車両納車、木曽消防署へ新規配備

10月30日　上松町で大型観光バス事故が発生(負傷者42名)

2月29日　東京スカイツリーが完成

4月29日　関越自動車道大型バス事故

7月27日　ロンドン五輪が開催

12月2日　笹子トンネル天井板落下事故

塩尻市贄川地区合同訓練

多目的支援車

沿　　革

社会の動き・災害等

平成25年（2013）

1月23日　地上アナログテレビ放送の終了に伴い、開田及び南木曽テレビ中継局の局舎等を受納。消防救急デジタル無線局舎として活用〔株式会社長野放送・株式会社テレビ信州・信越放送株式会社・長野朝日放送株式会社　寄附〕

3月　消防救急無線デジタル化工事及び高機能消防通信指令設備整備事業が起工

4月1日　新規採用職員２名、職員数66名体制

4月9日　塩尻市木曽平沢地区で建物火災発生に伴い、松本広域消防局に隣接消防応援を要請する。（建物２棟を焼損）

7月31日　大規模災害対応強化事業として、消防指令車２台を納車北分署及び南分署へ更新配備

6月22日　富士山が世界遺産に登録

6月30日　京都府福知山市花火大会火災

9月7日　2020年の東京五輪開催が決定

12月4日　和食がユネスコ無形文化遺産に登録

消防指令車

平成26年（2014）

3月11日　消防救急無線デジタル化工事及び高機能消防通信指令設備整備事業が竣工

新・消防指令システムの運用開始

4月1日　新規採用職員２名、職員数67名体制

7月9日　南木曽町土石流災害が発生（死傷者４名）

8月6日　上松町で建物火災が発生、８棟を焼損

8月29日　消防職員条例定数を67人とする。

9月27日　御嶽山噴火災害が発生（死者58名、行方不明者５名）

11月22日～23日

白馬村で神城断層地震発生に伴い、長野県消防総相互応援隊（救助隊５名）を派遣

2月15日　葛西紀明選手（スキージャンプ）が、ソチ冬季五輪にて最年長でメダルを獲得する。

4月1日　消費税率、8％へ改定

救急救命士の処置拡大、特定２行為の実施が可能になる。

5月23日　指導救命士制度が開始

6月21日　富岡製糸場が世界文化遺産に登録

8月20日　広島市土砂災害

上松町建物火災

白馬村での検索活動

沿　　革

社会の動き・災害等

平成27年（2015）

3月20日　緊急消防援助隊設備整備として、高規格救急自動車納車
救急分遣所へ更新配備

4月1日　新規採用職員１名、職員数67名体制
長野県消防学校へ１名長期派遣
高山市消防本部と消防相互応援協定書を締結

6月10日　御嶽山噴火災害再捜索合同調査へ職員派遣

7月12日　御嶽山噴火災害再捜索先遣隊へ職員派遣

7月25日　御嶽山噴火災害再捜索シェルター２基の設置活動を実施

7月29日～8月6日
御嶽山噴火災害再捜索活動を実施
岐阜県捜索隊により、行方不明者１名を発見

8月7日　御嶽山噴火災害再捜索シェルター解体撤収活動を実施

10月15日　長野県木曽保健所と、エボラ出血熱等の移送に関する協定書を締結

3月14日　北陸新幹線が延伸開業、東京－金沢間を結ぶ

5月17日　神奈川県川崎市簡易宿泊所火災

6月30日　東海道新幹線火災事件

再捜索合同調査の様子

シェルター資材の搬入作業

平成28年（2016）

2月15日　長野県警察合同で、氷下潜水訓練を実施

4月1日　新規採用職員２名、職員数68名体制

6月14日～17日　名古屋市消防局水難救助訓練視察研修を実施

6月28日　松本広域消防局と、長野県消防相互応援協定に基づく現地研修として、松本市奈川地区の警防視察研修を実施

10月15日～16日　中部ブロックDMAT実動訓練に参加

1月15日　軽井沢スキーバス転落事故

6月22日　18歳選挙権の施行

8月5日　リオデジャネイロ五輪が開催

12月22日　新潟県糸魚川市大規模火災

沿　　革

社会の動き・災害等

平成29年（2017）

2月21日　御嶽山火山防災学習会へ出席

2月24日　長野市消防局及び長野県警察合同で、氷下潜水訓練を実施

3月10日　消防ポンプ自動車納車、北分署へ更新配備

4月3日　新規採用職員２名、職員数66名体制

6月25日　長野県南部を震源とする震度５強の地震が発生
建物、道路等に被害を受ける。

8月1日　査察車納車、木曽消防署へ更新配備

8月22日～25日　機関員技術審査会を実施

10月20日　第13回関東地区消防職団員綱引き大会を木曽町で開催

11月9日　南木曽岳で、長野県警察山岳救助合同訓練を実施

11月12日　消防フェア2017を開催

12月20日　メール119聴覚障がい者等緊急通報システムを導入

3月5日　長野県消防防災ヘリ墜落事故

3月27日　栃木県那須町雪崩事故

4月1日　レゴランドが開園

11月8日　群馬県上野村ヘリ墜落事故

査察車

平成30年（2018）

1月20日　木曽地区山岳遭難防止対策協会合同で、冬期山岳遭難事故対応訓練を実施

1月26日　救助訓練施設整備事業として、救助技術大会はしご登はん訓練施設の新設及びほふく救出訓練施設の新規移設工事が竣工

4月2日　新規採用職員１名、職員数66名体制

6月26日　御嶽山火山防災訓練を実施

8月29日　大規模災害時における生コン組合との調整会議を開催

10月10日　大規模災害発生時の消防水利確保協定を締結

11月11日　消防フェア2018を開催

6月　西日本豪雨災害が発生

7月14日　御嶽海関が、大相撲名古屋場所にて初優勝を飾る。

8月10日　群馬県消防防災ヘリ墜落事故

9月6日　北海道胆振東部地震

10月6日　築地市場閉鎖、豊洲市場へ移転

御嶽山火山防災訓練

沿　　革

社会の動き・災害等

平成31年（2019）

4月1日　新規採用職員３名、職員数68名体制
長野県消防防災航空隊へ１名派遣

4月25日　災害医療に係る消防本部当担当者会議へ出席

令和元年

5月9日～6月20日　指導救命士養成研修へ派遣

8月7日　女性のための職場体験会を開催

8月25日　岡山県開催、第48回全国消防救助技術大会はしご登はん訓練に出場

9月22日　木曽警察署及び木曽地区山岳遭難防止対策協会との合同山岳救助訓練を実施

10月6日　消防フェア2019を開催

10月13日～16日
東日本台風災害発生に伴い、長野県消防相互応援隊(救助隊、救急隊及び支援隊、延べ35名)を長野市へ派遣

11月24日～29日
違反是正実務研修のため、岡崎市消防本部へ１名出向

12月1日　消防職員条例定数を67人とする。

5月1日　元号が『令和』へ改元

7月18日　京都アニメーション放火事件

10月1日　消費税率、10%へ改定
軽減税率制度が開始

10月20日　台風19号の活発な降雨により、権兵衛トンネル伊那市側入口の橋台の土砂が崩落。長期的な通行規制となる。

10月31日　沖縄県首里城火災

東日本台風災害による、長野市派遣

令和２年（2020）

1月6日　多目的支援車納車、木曽消防署へ新規配備

2月21日　長野県庁で開催、障がい者活躍推進計画作成説明会に出席

2月25日　オリンピック聖火リレー実行委員会会議に出席

2月28日　長野市消防局で開催、女性消防吏員研修会に参加

3月1日　長野県松本保健所と、エボラ出血熱患者等の移送に関する協定書を締結

4月1日　新規採用職員２名、職員数68名体制
消防指令システム部分更新事業が起工

9月15日　消防庁舎改修工事事業が起工

10月9日　女性消防吏員活躍推進研修会を実施

10月21日　長野県消防学校で行うビデオ喉頭鏡研修へ職員出向

12月1日　消防職員条例定数を72人とする。

3月　新型コロナウイルスが世界的に流行する。

3月24日　東京五輪の開催延期が決定

7月　令和２年７月豪雨災害

12月24日　木曽川右岸道路が開通

多目的支援車

女性消防吏員活躍推進研修会

沿　　革

令和３年
（2021）

2月18日　消防指令システム部分更新が竣工

3月1日　南木曽町聖火リレー現地対策本部会議に出席

3月28日　消防庁舎改修工事事業が竣工

女性消防職員専用施設を増築

4月1日　新規採用職員３名、職員数68名体制

消防本部初の女性消防吏員（救急救命士）を採用

緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練事務局へ１名派遣

4月2日　南木曽町聖火リレー特別警戒を実施

7月12日~20日

静岡県熱海市土石流災害発生に伴う緊急消防援助隊（救急隊、延べ12名）を派遣

7月30日　Web会議システム機材を導入

8月1日　NET119緊急通報システムの運用開始

8月14日　活発な降雨により、管轄地域内において土石流災害等が多発し、主要道路及び鉄道線の寸断などの被害が発生する。

上松町で発生した土石流災害

社会の動き・災害等

2月17日　新型コロナウイルスのワクチン接種が開始する。

4月3日　長野県消防防災ヘリ『アルプス』の運航再開

7月3日　静岡県熱海市土石流災害

7月23日　東京五輪が延期開催

業務紹介

当消防本部は、１本部１署２分署１分遣所、職員数68名体制で木曽郡内（一部、消防業務受託地域を含む）を管轄し、消防業務にあたっています。

警防・予防・救急・通信指令などの様々な業務は、すべての職員が幅広く行う『兼務制』としていることで、現場活動だけでなく消防事務などのすべてを、少数精鋭で遂行しています。

警　防

警防業務は、火災を警戒、鎮圧し、国民の生命、身体及び財産を火災から保護するために行う活動で、江戸時代中期の『町火消』から続く、消防業務の中で最も伝統的な業務です。

当消防本部では、少数での現場活動遂行のため、消火活動の研究検討や人材育成、消防団や隣接消防本部との合同訓練などを行い、地域住民の安全・安心のため、24時間365日を万全の体制で待機しています。

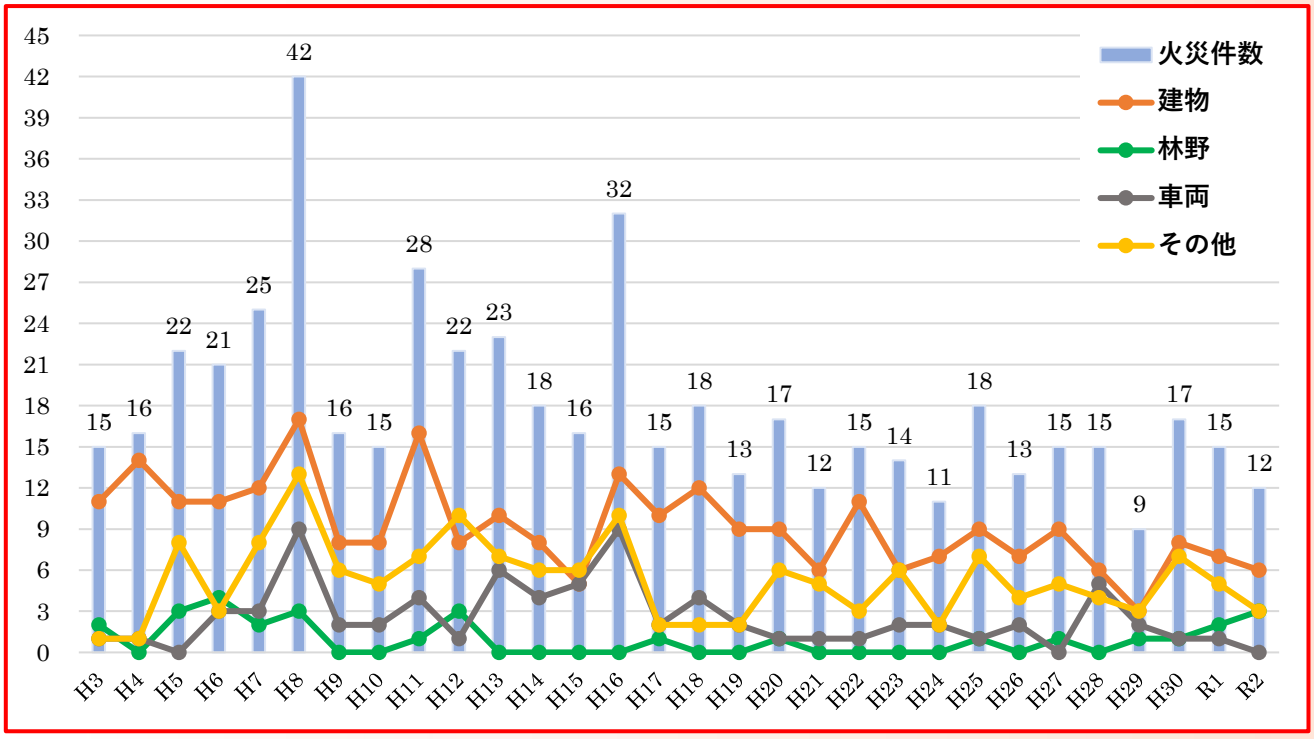
飯田広域消防本部合同訓練

建物火災現場活動

消防団合同火災想定訓練

上伊那広域消防本部合同訓練

◆ 過去30年の火災発生状況



救　助

救助は、交通事故や水難事故、自然災害、機械による事故などにより、生命・身体に危険が及んでいる要救助者に対し、人力や救助資器材を用いて安全・確実・迅速に救出することです。

当消防本部の管轄内には３つの国道があり、地域住民の生活主要道路を担う反面、交通事故が多く発生しています。また、管轄の90%以上が山間地であるため、山中などにおける救助要請も多く発生しています。近年の多種多様化する現場活動に対応するため、職員は技術向上と強靭な体力、精神力の養成に日々努めています。

交通事故における救助活動

救助技術大会(ほふく救出)

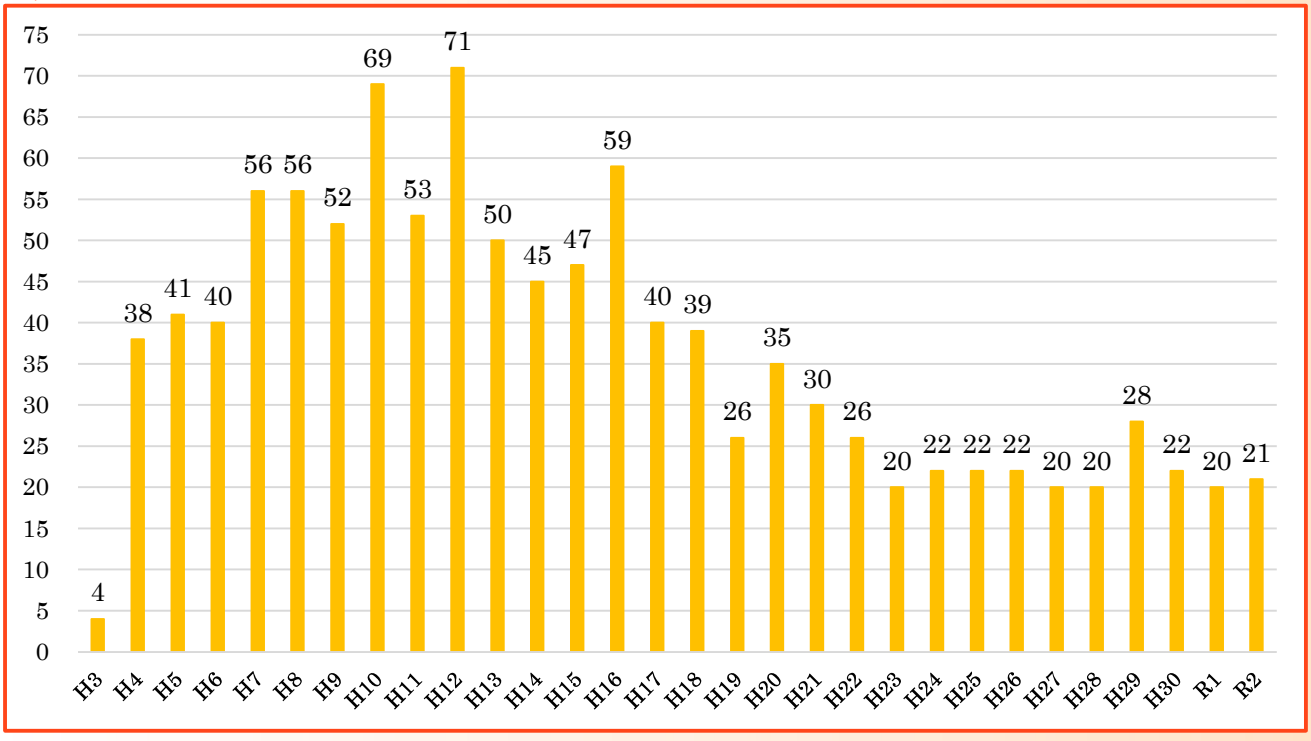
救助技術大会(はしご登はん)

山岳救助訓練

スキー場リフト救出訓練

水難救助訓練

◆ 過去30年の救助出場件数



救　急

救急業務は、災害や事故で怪我をした傷病者や具合の悪くなった傷病者に応急処置・救命処置を行い、医療機関へ搬送する業務です。また、尊い命をより多く救うために、必要不可欠な地域住民の応急手当・救命手当の普及啓発活動も重要な業務の一つです。

当消防本部と同様に、救急救命士制度が誕生して30年が経過し、現在25名の救急救命士が地域住民の救命率向上のため、活躍しています。

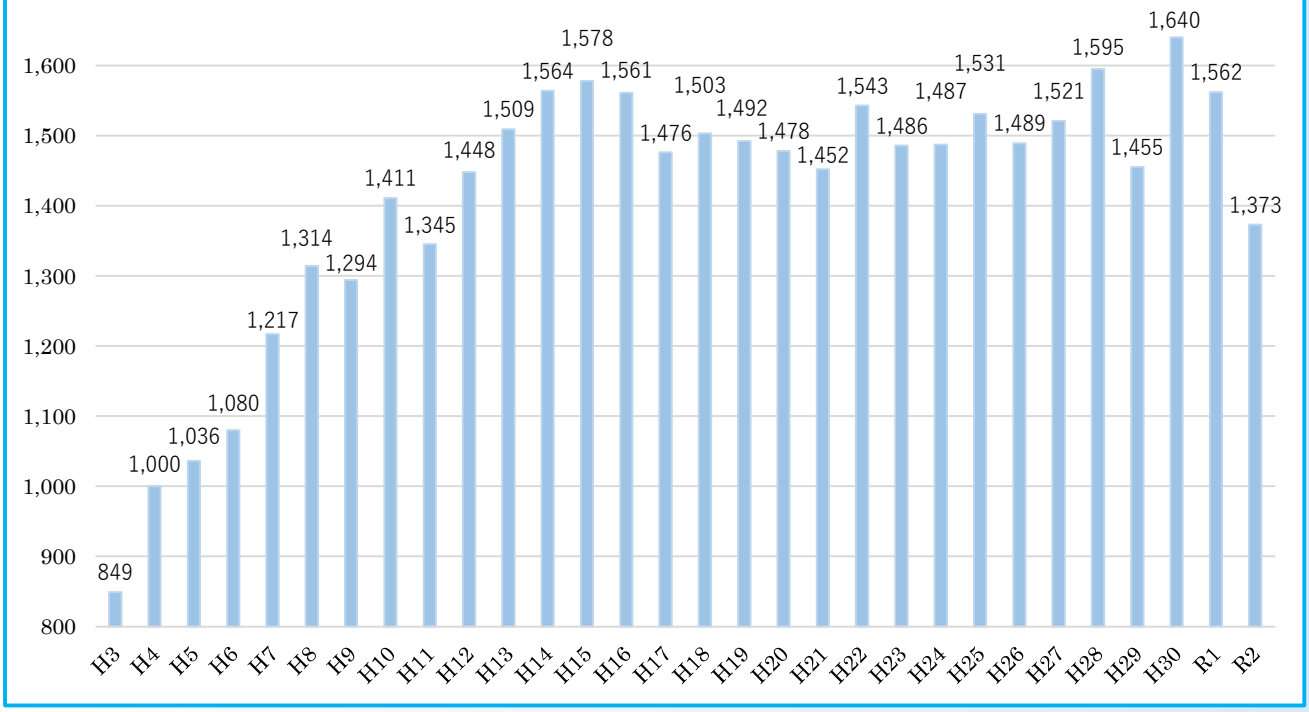
救急小隊訓練

ドクターヘリ連携活動

普通救命講習会

職員応急手当指導員講習

◆ 過去30年の救急出場件数



予　防

予防業務は、不特定多数の人が利用する建物に対し、消防法令に基づき、審査や検査、指導を行います。一方、既にある建物に対しては立入検査を行い、防火管理の状況や消防用設備等の維持管理などに対して指導をします。危険物施設(ガソリンスタンド等)にも同様の審査や検査、指導を行い、『火災発生の予防のため』『火災発生による被害軽減のため』の業務を行っています。その他に、事業所や地域住民へ消火訓練や避難訓練の指導、火災の予防啓発運動などを行っています。

◆ 予防査察

予防査察は、建物や危険物施設などに立ち入り、消防用設備等の設置と維持管理の状況、危険物の取扱い状況などについて検査を行うことで、火災危険と人命危険を排除するものです。消防法令の違反がある場合、関係者に違反内容を通知し、是正を促します。

◆ 火災原因調査

火災原因調査は、火災の発生原因や延焼拡大原因、建物などの損害についての調査を消火活動終了後に行います。調査結果は、類似した火災の発生を防ぐためや、発生した火災による被害を最小限にするために、消防法令の検討や火災予防啓発の資料作成など様々な対策に活用される重要なものです。

◆ 訓練指導

火災などが発生した場合、事業所の従業員の方々は「的確な119番通報」「初期消火活動」「避難誘導」などを協力して対応しなければなりません。そのために、各事業所や各地域で実施する消火訓練や避難訓練に職員が出向し、正しい消火方法や避難する上での注意事項など火災予防と防災に関する指導を行います。

◆ 火災予防運動

火災予防運動は、地域住民に対し火災予防思想の普及により、火災が発生しやすい季節における火災発生防止のために行っています。期間中は、管轄地域内を消防車両で巡回広報や、地域のコンビニなどで火災予防意識向上になる配布物を配布して、地域住民に注意を呼びかけています。

通信指令

通信指令は、地域住民からの119番通報による火災や救助、救急などの通報を受信し、現場に消防車や救助工作車、救急車を出場させる仕事を24時間体制で行います。
また、現場活動に必要な情報を通報者から聴取し、出場部隊や各関係機関へ提供をするなど、現場活動の円滑化を図るほか、ひっ迫した通報には冷静に対応し、通報内容によっては応急手当などの『口頭指導』を行います。

◆ 指令台

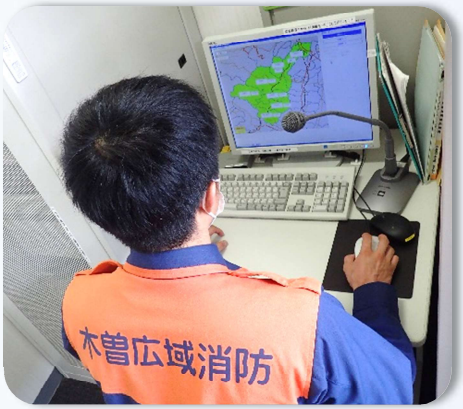
119番通報の受付、出動部隊の選定、消防無線の交信、各関係機関への連絡などを行います。
当消防本部では、指令台が２卓整備されており、職員が交代で、24時間２名体制で119番通報の対応を行っています。

◆ 聴覚障がい者等通報システム

聴覚に障がいがある方や発語障がいがある方などのように、音声での119番通報が困難な方が、ご自身で通報ができるシステムを導入しています。
当消防本部では、携帯電話やスマートフォンのチャット機能を活用した『NET119緊急通報システム』、パソコンや携帯のメール機能による『メール119』、文字による通報が可能な『FAX119』の３種類のシステムを導入しています。

◆ 町村同報起動装置

管轄地域内において火災が発生した際、該当する地域に火災の発生を知らせ、消防団員へ火災出場を知らせるための装置です。
その他に、管轄地域内において火災が発生しやすい気象情報が発表された際、住民に向けて注意喚起の広報を行っています。



◆ 車両ＡＶＭ端末

車両ＡＶＭ端末とは、車両動態運用端末装置といい、災害等発生場所への経路や現場付近の情報(消防水利の場所など)の表示、搭載車両の出場・現場到着・活動開始・帰署など、情報の管理を行う機器です。
その他に、現場活動に支障をきたす内容の届出書などの情報をデータ入力し、ＡＶＭ端末に反映することで、現場活動の円滑化を図っています。

災害派遣

近年、日本各地において、大雨による河川の氾濫災害や土石流災害、突如発生する大規模地震などが相次いでおり、大規模災害発生時は、地域を管轄とする消防本部だけでは対応困難な状況になります。

災害派遣は、被災地からの要請を受けて、全国各地の消防本部、または県内各地の消防本部から被災地へ出場し、人命救助活動や行方不明者の検索活動を行います。

◆ 災害派遣実績

災害名（派遣期間）	活動内容	派遣隊及び人員
阪神・淡路大震災 （平成7年1月21日～1月26日）	兵庫県神戸市長田区にて、倒壊家屋から救助及び検索を実施。	救助隊 人員４名
蒲原沢土石流災害 （平成8年12月6日～12月16日）	小谷村湯原にて、土石流に巻き込まれた平成7年豪雨災害の復旧作業員の救助及び検索を実施。	指揮隊・救助隊 延べ人員39名
松本市浅間温泉大規模山林火災 （平成14年3月21日）	松本市本郷地区にて発生した大規模山林火災の延焼拡大状況の確認のため巡回を実施。	消防隊 人員４名
新潟県中越地震 （平成16年10月25日～10月28日）	山古志村民を避難場所へ誘導、小千谷市にて傷病者を新潟県内外へ救急搬送を実施。	救助隊・救急隊・支援隊 延べ人員12名
東日本大震災 （平成23年3月11日～3月28日）	宮城県内にて、津波による被災地域の救助及び検索活動を実施。	救助隊・支援隊 延べ人員34名
長野県神城断層地震 （平成26年11月22日～11月23日）	白馬村三日市場地区の全半壊建物内における要救助者の検索を実施。	救助隊・支援隊 人員７名
令和元年東日本台風災害 （令和元年10月13日～10月16日）	浸水した長野市内各地区及び福祉施設などにおける要救助者の搬送及び検索を実施。	救助隊・救急隊・支援隊 延べ人員35名
静岡県熱海市土石流災害 （令和3年7月12日～7月20日）	長野県大隊の捜索活動隊員における負傷者発生による応急処置班として待機した。	救急隊 延べ人員12名

■：長野県消防相互応援　■：緊急消防援助隊

東日本大震災での活動の様子

令和元年東日本台風災害での活動の様子

広報活動

消防広報は、災害発生状況や各種施策などを正しく地域住民に伝え、消防行政の理解と協力を得るために行っています。

広報活動の一大イベントとして『消防フェア』は、普段あまり知られていない消防業務について、地域住民への理解を深め、防火・防災意識の普及と高揚を図ることを目的として、平成29年から開催しました。令和元年で第３回の実施となり、今後もより多くの地域住民が消防業務への理解を深め、消防を身近に感じていいただけるような活動を実施していきます。

放水体験コーナー

119番通報体験コーナー

消防団ラッパ隊による演奏

救急法体験コーナー

ミニ消防車乗車体験

救助体験コーナー

女性職員活躍推進

当消防本部では、総務省消防庁が掲げる「消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組みの推進」に基づき、女性が安心して働きやすく、災害現場等で活躍するために、女性消防吏員活躍推進アドバイザー制度による活躍支援研修や職場におけるハラスメント防止研修、勤務等に関する要綱の制定などの職場環境整備に努めています。

令和３年度に待望の女性消防吏員１名の採用を実現でき、更なる女性消防吏員の活躍推進と拡充のための活動を実施していきます。

◆ 女性消防吏員の業務

女性消防吏員は、昭和44年に神奈川県川崎市で初めて採用されました。採用当時は、予防業務を中心とする毎日勤務に従事していましたが、平成６年の女性労働基準規則の一部改正により、警防活動・救急活動・通信指令などの交代制勤務(24時間体制)が可能となり、消防業務における活躍の場が拡大しました。

当消防本部では、消防業務が『兼務制』であることから、すべての消防業務について指導及び訓練を受けながら、住民サービスの向上のために男性職員と同等に勤めています。

消火活動訓練の様子

救急訓練の様子

救助訓練の様子

◆ 女性職員専用施設

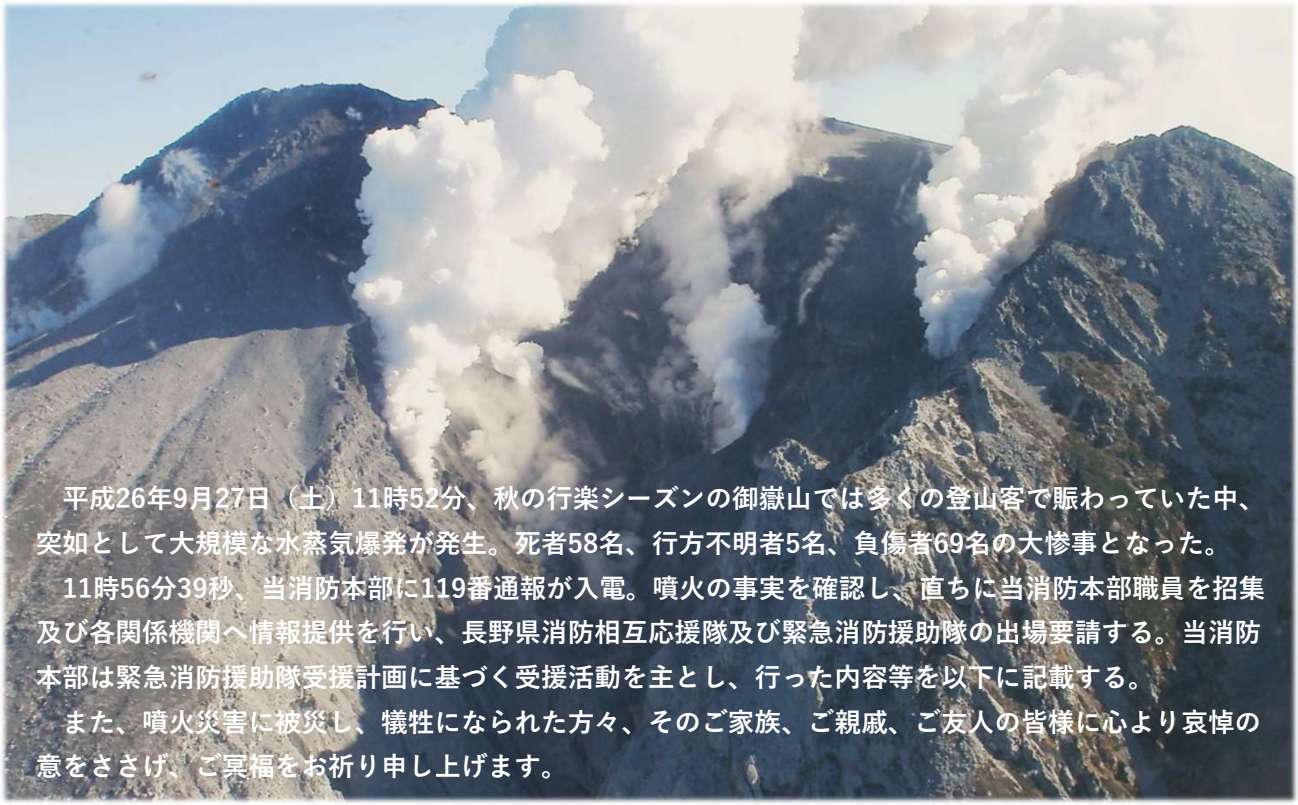
女性職員専用施設は、女性職員が交代制勤務(24時間体制)に従事できる環境整備のために建設し、令和３年３月に竣工しました。専用施設内には、個室型の仮眠室を２部屋とシャワー室を設置し、女性職員が安心して働ける施設となっています。

女性職員専用施設の外観

仮眠室

シャワー室

御嶽山噴火災害



平成26年9月27日（土）11時52分、秋の行楽シーズンの御嶽山では多くの登山客で賑わっていた中、突如として大規模な水蒸気爆発が発生。死者58名、行方不明者5名、負傷者69名の大惨事となった。

11時56分39秒、当消防本部に119番通報が入電。噴火の事実を確認し、直ちに当消防本部職員を招集及び各関係機関へ情報提供を行い、長野県消防相互応援隊及び緊急消防援助隊の出場要請する。当消防本部は緊急消防援助隊受援計画に基づく受援活動を主とし、行った内容等を以下に記載する。

また、噴火災害に被災し、犠牲になられた方々、そのご家族、ご親戚、ご友人の皆様に心より哀悼の意をささげ、ご冥福をお祈り申し上げます。

時系列

9月27日(土)

11：52	御嶽山噴火	14：45～	王滝村役場及び木曽町役場災害対策本部へ情報収集のため、職員派遣
11：56	119番通報にて、御嶽山の噴火を覚知		
11：58～	王滝村・木曽町・木曽警察署・消防防災航空隊・木曽地方事務所・県立木曽病院など関係機関へ情報提供	15：07～	御嶽山各登山口にて、下山者のトリアージ、医療提供体制及び搬送体制を確保
12：04	全職員へ緊急メールを発信	16：55	松本広域消防局指揮支援隊が到着 活動方針を検討
12：18	岐阜県高山市消防本部へ情報提供		
13：08	気象庁から登山者へ下山指示	17：35～	負傷者下山情報を受け、消防本部及び警察機動隊で救助隊を編成。８合目付近で負傷者５名と接触し、現時点での最終下山者である情報を入手、救助活動を中断
13：10	各山小屋及び通報者に対して下山指示を連絡		
13：20	全職員を参集		
13：26	多数傷病者情報を受け、木曽病院DMATの出場を要請	18：37～	負傷者の救急搬送
13：30～	御嶽山の各登山道からの下山者の状況把握及び救護活動のため、救急隊・支援隊が出場	20：30	緊急消防援助隊の出場を要請
14：35	ドクターヘリの出場を要請	21：15	県下13消防本部へ長野県消防相互応援隊の出場を要請
14：52	松本広域消防局へ長野県消防相互応援隊の出場を要請	21：45	緊急消防援助隊及び長野県消防相互応援隊（以下、災害派遣隊）の受援方針を決定。

9月28日(日)

2：59 ～	災害派遣隊の集結場所への誘導開始及び宿営場所の確保、案内のため職員出向
4：11	災害対策本部に職員出向（王滝村及び木曽町役場）
4：40	県立木曽病院へ情報収集のため職員出向
5：00 ～	火山判定会議で噴火活動確認後、救助活動開始予定 消防・警察・自衛隊が、各自活動準備を開始 御嶽山各登山道へ災害派遣隊及びDMATを先導
7：40 ～	地上部隊が入山。部隊の先導及び救急活動、自衛隊ヘリ等の支援活動を実施
14：00	救助活動終了
17：56	地上部隊の下山完了

噴火発生後の木曽消防署事務所

9月29日(月)～10月16日(金)

6：00 ～	地上部隊活動開始 以降、当消防本部の受援活動は下記のとおり ・部隊の先導及び捜索活動 ・前進指揮所の支援活動 ・負傷救助隊員の搬送補助 ・王滝村松原公園でのヘリ支援活動 ・災害派遣隊宿営地の巡回・状況確認 ・支援物資の搬送活動 ・災害対策本部等での情報収集を実施
内、10日間 火山性ガスの発生または天候不良により救助活動は中止・中断となった	

火山灰が降り積もった御嶽山九合目付近

王滝口登山道に集結した緊急消防援助隊

噴石により破損した山小屋

受援活動

宿営地の確保　災害派遣隊を迎えるにあたり、隊の希望により屋根付き施設の宿営地を手配した。その後、台風の襲来や御嶽山への移動時間短縮のため王滝村の御厚意により、おんたけ2240スキー場の宿泊施設等に宿営地を変更し、救助活動を継続した。（写真　左：王滝村松原公園　右：おんたけ2240スキー場）

登山道先導活動

火山灰の影響で、登山ルートの目印の視認が困難であったため、御嶽山の登山ルートや山小屋などに精通している職員が、各活動隊に同行し、その先導を務めた。

安全管理に細心の注意を払うのと同時に、隊員の体調管理にも気を配りながらの活動となった。

ヘリ支援活動

救助活動の迅速化を図るため、御嶽山へ活動隊員輸送のために自衛隊ヘリを活用したことで、離着陸場の確保及び散水活動や燃料の確保、火山灰で汚れた機内を消防ホースを使用した清掃活動を実施した。水利が乏しい場所であったため、郡内町村の給水車による水の搬送を要請した。

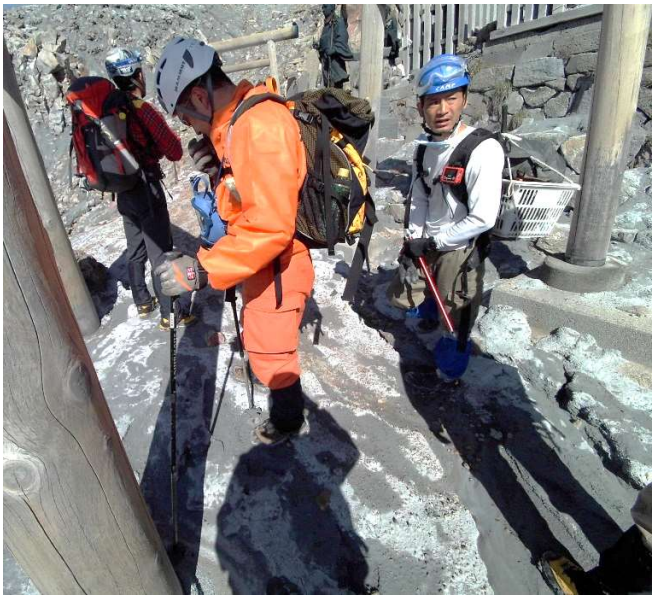
宿営地の巡回・支援物資の輸送

活動隊員が宿営地で休息する際に発生した廃棄物の収集、処理及び食糧配布のため、各宿営地を巡回した。

また、全国各地から企業または個人を問わず、活動応援のための支援物資が送られてきたため、各都県隊に提供した。

（写真　左：宿営場所の様子　上：送られてきた支援物資）

再捜索活動に向けて



再捜索合同調査

行方不明者再捜索活動に向け、噴火災害後の御嶽山の状況を把握するため、各関係機関（長野県警察や気象庁など）による合同調査を平成27年6月10日(水)と同月30日(火)に実施した。(内、6月10日のみ職員派遣)

調査では、活動支障となる火山性ガスの濃度や火山灰の降灰状況などを綿密に確認し、現状を災害対策本部へ報告した。

再捜索先遣隊

合同調査の結果を踏まえ、本格的に再捜索活動を実施するにあたり、捜索部隊の編成、捜索方法及び必要な装備品、並びに活動上の安全対策などの検討のため、平成27年7月12日(日)に先遣隊を派遣した。

重点捜索箇所や危険箇所のマーキング、シェルター設置の候補地確認、再捜索活動使用資機材の考察などを行ったほか、登山道に通行支障がないことや、避難場所として山小屋の使用が可能であることが確認された。

仮設シェルター設置

再捜索活動中の再噴火に備え、捜索隊員の緊急避難と安全確保のために、仮設シェルターを設置した。作業は長野県警察と合同で行い、資材及び人員搬送は自衛隊ヘリを活用した。先遣隊での候補地調査の結果、一ノ池付近にシェルターを３基設置した。(内、２基は当消防本部が担当)

当日を迎えるにあたり、作業の円滑化を図るための事前組み立て訓練を行ったことで、約１時間半で設置作業が完了し、下山した。

再捜索活動

　合同調査及び先遣隊派遣での調査結果を踏まえ、御嶽山噴火災害対策本部員会議において再捜索活動の実施が決定した。

　捜索活動は、『隊員の安全確保を前提とする』『長野県内消防本部及び警察が捜索を行う』『ご家族の思いに添った対応を行う』の３点を基本方針とし、長野県内の消防、長野県警察及び自衛隊の派遣を要請し、平成27年7月29日(水)から実施した。

　先遣隊にてマーキングした重点捜索箇所と、活動中の遺留品などの発見場所とその付近を徹底して捜索を行ったほか、長野県警察が撮影した映像をご家族に御覧いただき、捜索要望があれば翌日の活動に反映し、捜索した。また、希望された行方不明者のご家族に消防防災ヘリ等に搭乗していただき、活動現場の状況と様子を上空から御覧いただいた。

　７月31日(金)、岐阜県捜索隊により行方不明者１名を発見したが、その後の発見には至らなかった。『重点捜索エリアの捜索完了』『ご家族のご要望に応えた捜索完了』『新たな手掛かりがない中、火山活動継続中の標高3,000mの高地において捜索活動継続が困難』の３点の理由により、災害対策本部にて8月6日(木)をもって、活動の終了が決定した。

再捜索活動に集結した県下各消防本部

捜索活動前のミーティングの様子

濃霧の中での捜索活動

活動終了後、御嶽山に向け黙祷する職員

派遣消防本部等一覧

長野県消防相互応援隊

長野市消防局
松本広域消防局
佐久広域連合消防本部
飯田広域消防本部
上田地域広域連合消防本部
諏訪広域消防本部
伊那消防組合消防本部
岳南広域消防本部
須坂市消防本部
千曲坂城消防本部
北アルプス広域消防本部
伊南行政組合消防本部
岳北消防本部

DMAT派遣医療機関

相澤病院	中津川市民病院
飯田市立病院	市立甲府病院
伊那中央病院	山梨県立中央病院
佐久医療センター	山梨赤十字病院
市立大町総合病院	山梨大学医学部附属病院
信州上田医療センター	笛吹中央病院
信州大学医学部附属病院	富士吉田市立病院
諏訪赤十字病院	前橋赤十字病院
長野県立木曽病院	さいたま赤十字病院
長野赤十字病院	長岡赤十字病院
北信総合病院	国立災害医療センター

緊急消防援助隊

東京都大隊

東京消防庁

山梨県大隊

甲府地区広域行政事務組合消防本部
富士五湖広域行政事務組合消防本部
峡北広域行政事務組合消防本部
峡南広域行政組合消防本部
南アルプス市消防本部
笛吹市消防本部

静岡県大隊

静岡市消防局
浜松市消防局
沼津市消防本部
富士市消防本部
田方消防本部
牧之原市消防本部
伊東市消防本部
熱海市消防本部

愛知県大隊

名古屋市消防局
豊橋市消防局
田原市消防本部
蒲郡市消防本部
新城市消防本部
豊川市消防本部
豊田市消防本部
衣浦東部広域連合消防局
春日井市消防本部
一宮市消防本部
海部南部消防組合消防本部
大府市消防本部
尾三消防本部
海部東部消防組合消防本部
瀬戸市消防本部
西春日井広域事務組合消防本部
岡崎市消防本部
西尾市消防本部
津島市消防本部
小牧市消防本部
常滑市消防本部
幸田町消防本部

岐阜県大隊

岐阜市消防本部
大垣市消防組合消防本部
各務原市消防本部
郡上市消防本部
多治見市消防本部
可茂消防事務組合消防本部
恵那市消防本部
揖斐郡消防組合消防本部
海津市消防本部

富山県大隊

富山市消防局
高岡市消防本部
射水市消防本部
富山県東部消防組合消防本部
砺波地域消防組合消防本部

※各消防本部については、平成26年発災時の名称を記載

消防庁舎・車両紹介

木曽広域消防本部・木曽消防署

竣　　工：平成3年6月

所 在 地：木曽町福島3737番地

構　　造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

敷地面積：5，806㎡

建築面積：1，072㎡

1階　消防署事務室　通信指令室
　　車庫　消毒室　浴室　休憩室

2階　消防長室　消防本部事務室　食堂
　　男性仮眠室　女性仮眠室

3階　講堂　研修室　通信機械室

管　　轄：木曽町　上松町

電話番号：消防本部　0264－24－3119
　　消防署　　0264－22－0119

庁舎南側車庫

庁舎北側訓練施設

配 備 車 両

木曽指揮１（指揮隊車）

車 名	トヨタ	総重量	3,015 kg
型 式	KG-HZJ76V	長 さ	510 cm
登 録	H15.10.23	幅	169 cm
排気量	4.16 L	高 さ	234 cm

木曽消防１（水槽付ポンプ車）

車 名	日野	総重量	10,300 kg
型 式	SDG-GX7JGAA改	長 さ	720 cm
登 録	H24.2.13	幅	230 cm
排気量	6.40 L	高 さ	298 cm

木曽救助１（救助工作車）

車 名	日野	総重量	10,320 kg
型 式	KK-GX1JGDA改	長 さ	749 cm
登 録	H14.11.8	幅	230 cm
排気量	7.96 L	高 さ	312 cm

木曽救急２（高規格救急車）

車 名	トヨタ	総重量	3,225 kg
型 式	CBF-TRH226S	長 さ	562 cm
登 録	H22.11.11	幅	189 cm
排気量	2.69 L	高 さ	255 cm

木曽救急３（非常用救急車１）

車　名	トヨタ	総重量	3,165 kg
型　式	TC-VCH38S	長　さ	564 cm
登　録	H15.10.23	幅	180 cm
排気量	3.37 L	高　さ	260 cm

木曽救急１（非常用救急車２）

車　名	トヨタ	総重量	2,890 kg
型　式	U-LH129S	長　さ	558 cm
登　録	H11.6.18	幅	169 cm
排気量	2.77 L	高　さ	242 cm

木曽支援１（資器材搬送車）

車　名	トヨタ	総重量	3,815 kg
型　式	KR-KDY280	長　さ	478 cm
登　録	H16.10.8	幅	174 cm
排気量	2.49 L	高　さ	272 cm

木曽支援２（多目的支援車）

車　名	トヨタ	総重量	3,195 kg
型　式	CBF-TRH226K	長　さ	538 cm
登　録	H24.9.27	幅	188 cm
排気量	2.69 L	高　さ	246 cm

木曽支援３（多目的支援車）

車　名	トヨタ	総重量	2,650 kg
型　式	CBA-TRH219W	長　さ	484 cm
登　録	R1.12.23	幅	188 cm
排気量	2.69 L	高　さ	225 cm

木曽消防署　北分署

竣　　工：平成3年5月

所 在 地：木祖村薮原873番地1

構　　造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

敷地面積：1，810㎡

建築面積：463㎡

1階　事務室　応接室　浴室
消毒室　車庫

2階　会議室　仮眠室　休憩室　食堂

管　　轄：木曽町日義地区　木祖村
塩尻市楢川地区

電話番号：0264－36－3119

配　備　車　両

木曽消防６（ポンプ車）

車　名	日野	総重量	6,435 kg
型　式	TKG-XZU685M	長　さ	590 cm
登　録	H29.3.2	幅	188 cm
排気量	4.00 L	高　さ	282 cm

木曽救急６（高規格救急車）

車　名	トヨタ	総重量	3,215 kg
型　式	CBF-TRH226S	長　さ	562 cm
登　録	H23.3.17	幅	189 cm
排気量	2.69 L	高　さ	256 cm

木曽指揮６（指令車）

車　名	ニッサン	総重量	1,795 kg
型　式	DBA-TN31	長　さ	463 cm
登　録	H25.7.25	幅	179 cm
排気量	1.99 L	高　さ	183 cm

木曽消防署　南分署

竣　　工：平成3年5月

所 在 地：南木曽町読書3680番地1

構　　造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

敷地面積：1，617㎡

建築面積：463㎡

1階　事務室　応接室　浴室
消毒室　車庫

2階　会議室　仮眠室　休憩室　食堂

管　　轄：南木曽町　大桑村

電話番号：0264－57－3119

配　備　車　両

木曽消防７（ポンプ車）

車　名	日野	総重量	6,505 kg
型　式	BDG-XZU378M	長　さ	565 cm
登　録	H21.12.22	幅	188 cm
排気量	4.00 L	高　さ	278 cm

木曽救急７（高規格救急車）

車　名	トヨタ	総重量	3,265 kg
型　式	CBF-TRH226S	長　さ	563 cm
登　録	H20.3.19	幅	189 cm
排気量	2.69 L	高　さ	256 cm

木曽指揮７（指令車）

車　名	ニッサン	総重量	1,795 kg
型　式	DBA-TN31	長　さ	463 cm
登　録	H25.7.25	幅	179 cm
排気量	1.99 L	高　さ	183 cm

木曽消防署　救急分遣所

竣　　工：平成5年3月

所 在 地：木曽町三岳9125番地4

構　　造：鉄筋コンクリート造

敷地面積：998㎡

建築面積：169．95㎡

1階　事務室　仮眠室　休憩室　浴室
消毒室　車庫

管　　轄：木曽町　王滝村

電話番号：0264－46－3119

配　備　車　両

木曽消防５（ポンプ車）

車　名	日野	総重量	6,555 kg
型　式	BDG-XZU378M	長　さ	568 cm
登　録	H19.3.13	幅	189 cm
排気量	4.00 L	高　さ	291 cm

木曽救急５（高規格救急車）

車　名	ニッサン	総重量	3,315 kg
型　式	CBF-FPWGE50改	長　さ	564 cm
登　録	H27.3.13	幅	190 cm
排気量	3.49 L	高　さ	252 cm

資　料

歴代消防長

小田　幹雄	平成3年4月1日	～	平成6年3月31日	3年
畑　　幸寿	平成6年4月1日	～	平成10年3月31日	4年
松田　一孝	平成10年4月1日	～	平成15年3月31日	4年
武居　一彦	平成15年4月1日	～	平成18年3月31日	3年
織田　佳樹	平成18年4月1日	～	平成20年3月31日	2年
奥原　秋夫	平成20年4月1日	～	平成25年3月31日	5年
山田　誠吾	平成25年4月1日	～	平成27年3月31日	2年
楯　啓二	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日	1年
湯川　秀俊	平成28年4月1日	～	平成29年3月31日	1年
瀧澤　修二	平成29年4月1日	～	平成31年3月31日	2年
三澤　昌孝	平成31年4月1日	～	令和2年3月31日	1年
谷口　利則	令和2年4月1日	～		現職

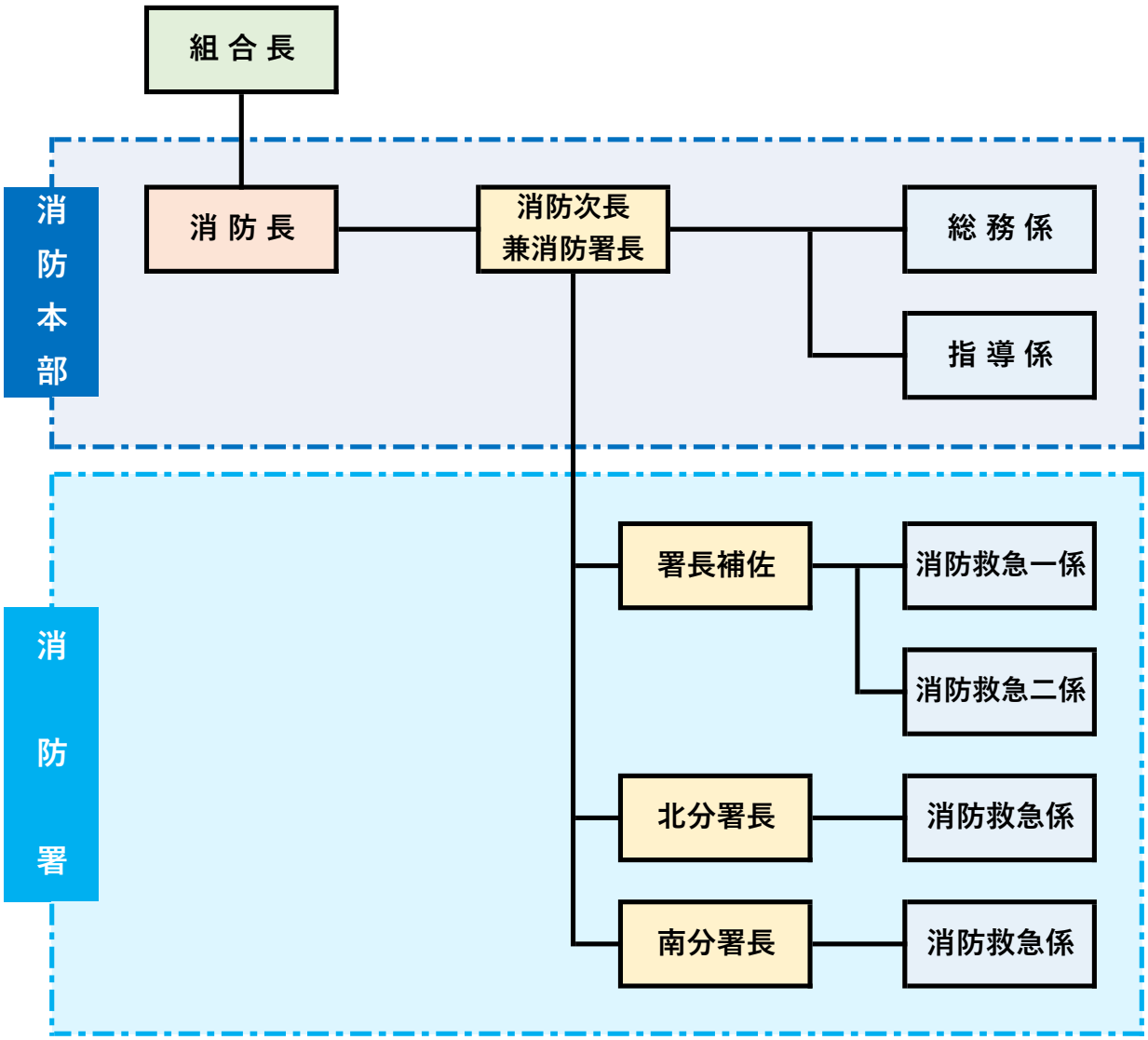
歴代消防署長

畑　幸寿	平成3年4月1日	～	平成5年3月31日	2年
林　弘	平成5年4月1日	～	平成7年3月31日	2年
入口　精造	平成7年4月1日	～	平成9年3月31日	2年
松田　一孝	平成9年4月1日	～	平成13年3月31日	4年
大下　文明	平成13年4月1日	～	平成18年10月28日	5年7ヶ月
下村　清	平成18年10月29日	～	平成19年3月31日	5ヶ月
奥原　秋夫	平成19年4月1日	～	平成20年3月31日	1年
久保畠 賢一	平成20年4月1日	～	平成25年3月31日	5年
楯　啓二	平成25年4月1日	～	平成27年3月31日	2年
中洞　修二	平成27年4月1日	～	平成29年3月31日	2年
奥田　博人	平成29年4月1日	～	平成30年3月31日	1年
村仲　秀昭	平成30年4月1日	～	令和2年3月31日	2年
水野　寅王	令和2年4月1日	～		現職

歴代木曽消防協会長

森本　　力	木祖村消防団長	昭和55年　～　昭和56年	1年
大橋　弘義	木曽福島町消防団長	昭和56年　～　昭和57年	1年
下野戸　豊	三岳村消防団長	昭和57年　～　昭和59年	2年
田口　和	上松町消防団長	昭和59年　～　昭和61年	2年
村木　與助	王滝村消防団長	昭和61年　～　昭和63年	2年
森本　忠光	木曽福島町消防団長	昭和63年　～　平成２年	2年
長尾 喜久男	上松町消防団長	平成２年　～　平成４年	2年
岩原　力	木祖村消防団長	平成４年　～　平成６年	2年
長嶋　孝男	楢川村消防団長	平成６年　～　平成７年	1年
中村　貞雄	上松町消防団長	平成７年　～　平成８年	1年
上垣戸　修	日義村消防団長	平成８年　～　平成９年	1年
清水　紘一	木祖村消防団長	平成９年　～　平成10年	1年
小倉　保文	南木曽町消防団長	平成10年　～　平成11年	1年
春日　正志	木曽福島町消防団長	平成11年　～　平成12年	1年
原　章	木祖村消防団長	平成12年　～　平成14年	2年
小栗　明寿	上松町消防団長	平成14年　～　平成16年	2年
鈴木　正弘	木祖村消防団長	平成16年　～　平成18年	2年
奥原　秀孝	木曽町消防団長	平成18年　～　平成20年	2年
志水　保仁	南木曽町消防団長	平成20年　～　平成22年	2年
田代　洋次	王滝村消防団長	平成22年　～　平成24年	2年
山田　弘	上松町消防団長	平成24年　～　平成26年	2年
児野 光九仁	木曽町消防団長	平成26年　～　平成28年	2年
永井　悦郎	木祖村消防団長	平成28年　～　平成30年	2年
寺嶋　英治	大桑村消防団長	平成30年　～　令和２年	2年
森本　剛士	木曽町消防団長	令和２年　～	現任

消防組織図（発足当時）

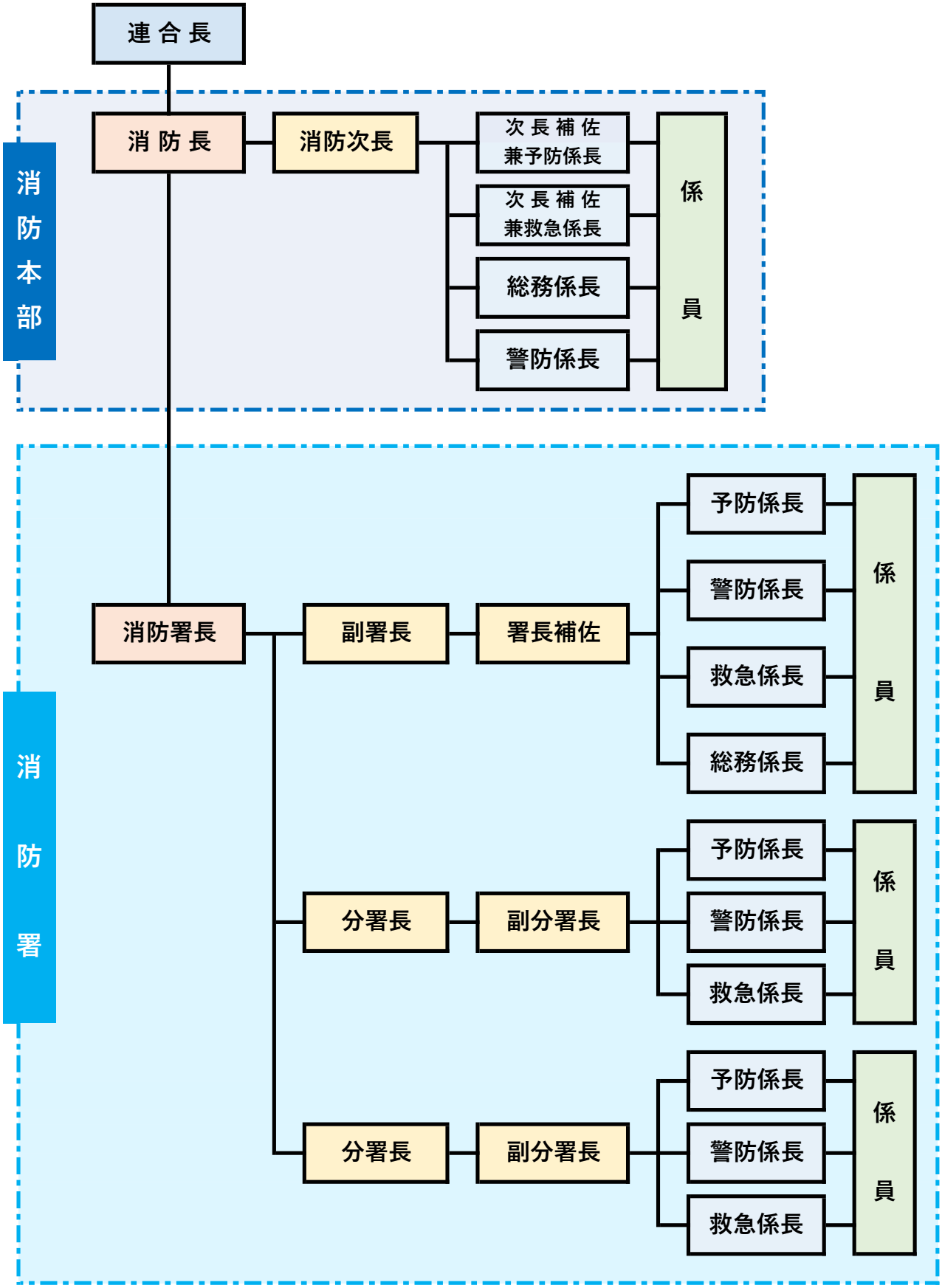


階級別所属別職員配置状況（発足当時）

※（）内は兼務

階級／配置	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
消防本部	1	(1)	2			1		4
木曽消防署		1 (1)	1	3	3	4	9	21
北分署			1	2	1	1	8	13
南分署			1	2	1	3	6	13
計	1	1	5	7	5	9	23	51

消防組織図（令和3年4月1日 現在）



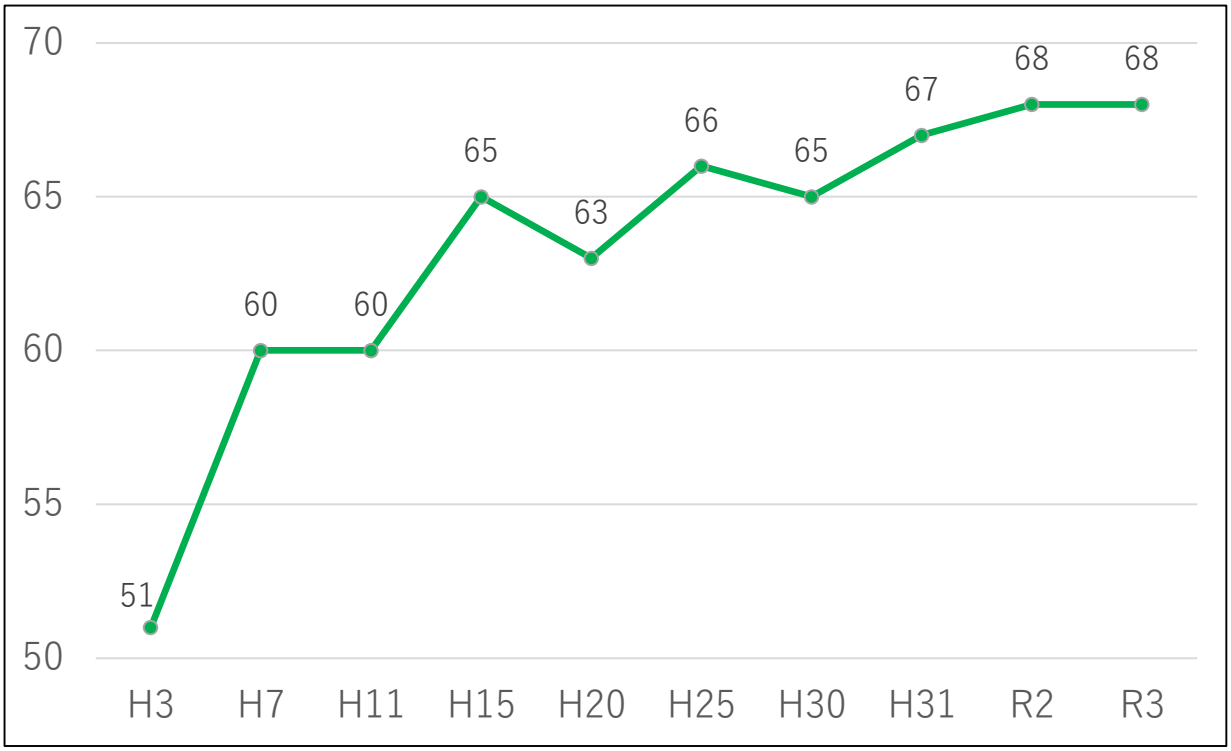
階級別所属別職員配置状況（令和3年4月1日 現在）

階級／配置	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
消防本部	1	1	4	2		4	12
木曽消防署		2	13	9		6	30
北分署		1	5	4	2	1	13
南分署		1	5	3	2	2	13
計	1	5	27	18	4	13	68

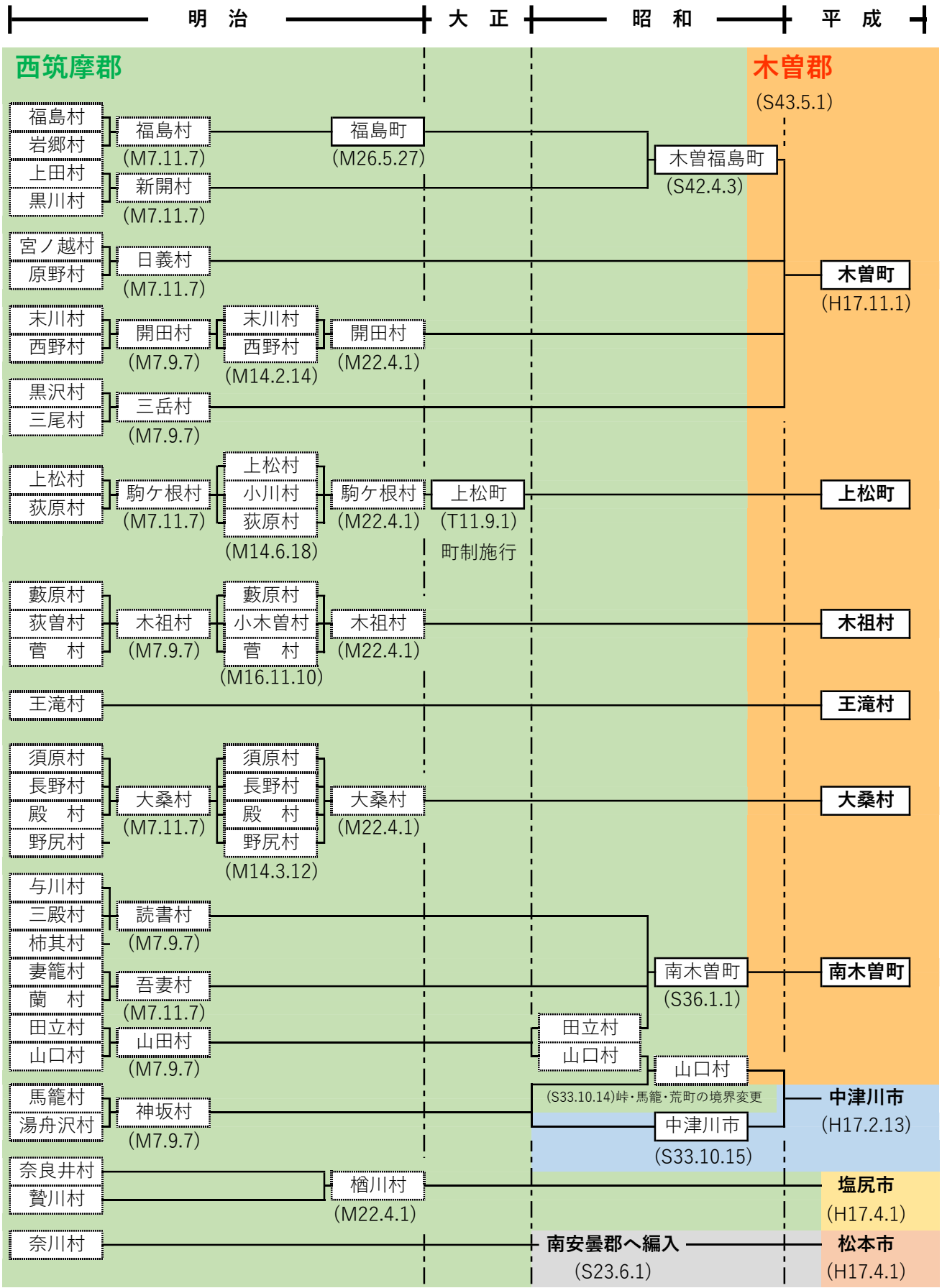
階級別年齢別状況（令和3年4月1日 現在）

階級／年齢	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	計
～20						4	4
21～30				3	4	9	16
31～40				8			8
41～50			13	7			20
50～60	1	5	14				20
計	1	5	27	18	4	13	68

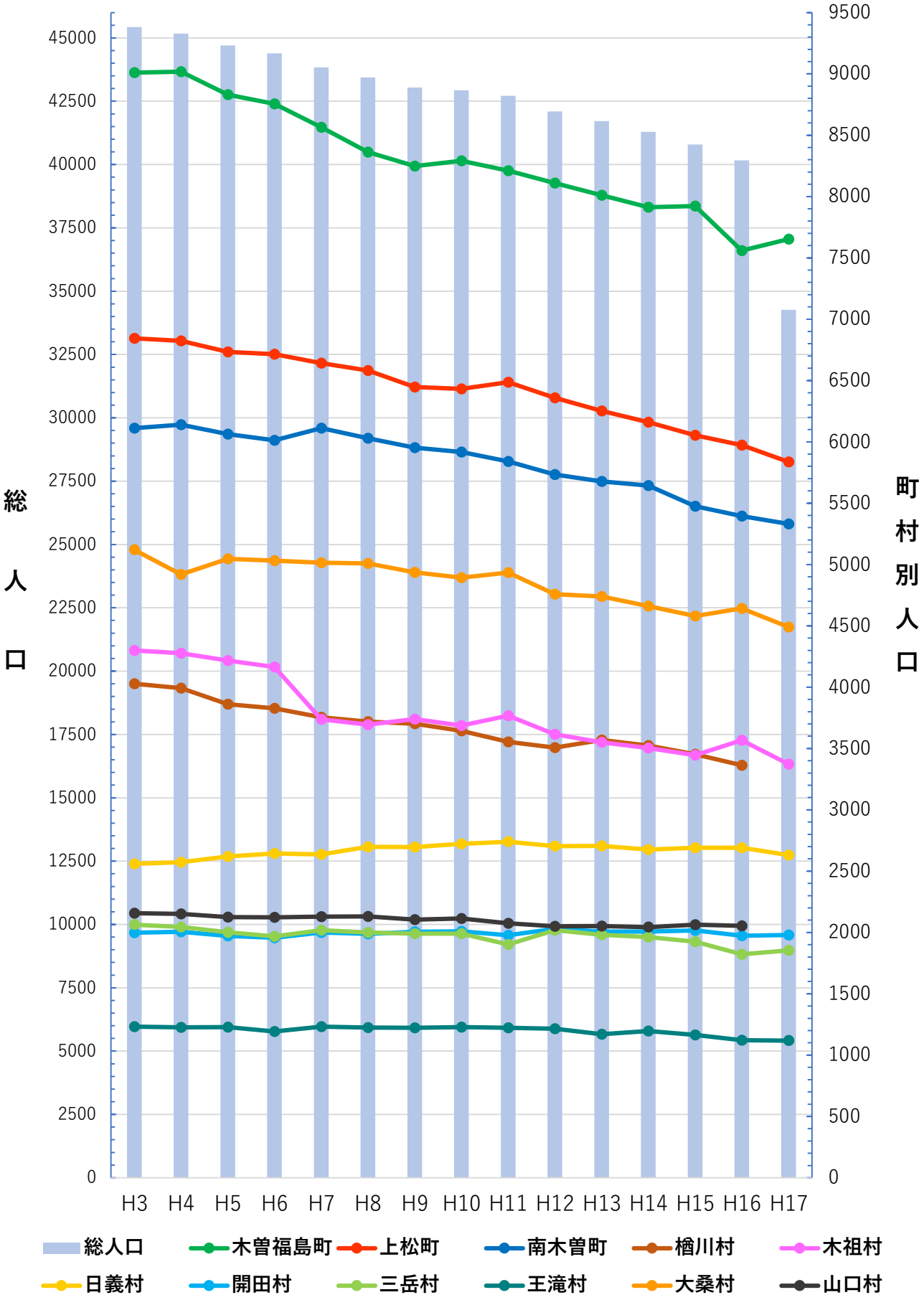
職員数の推移



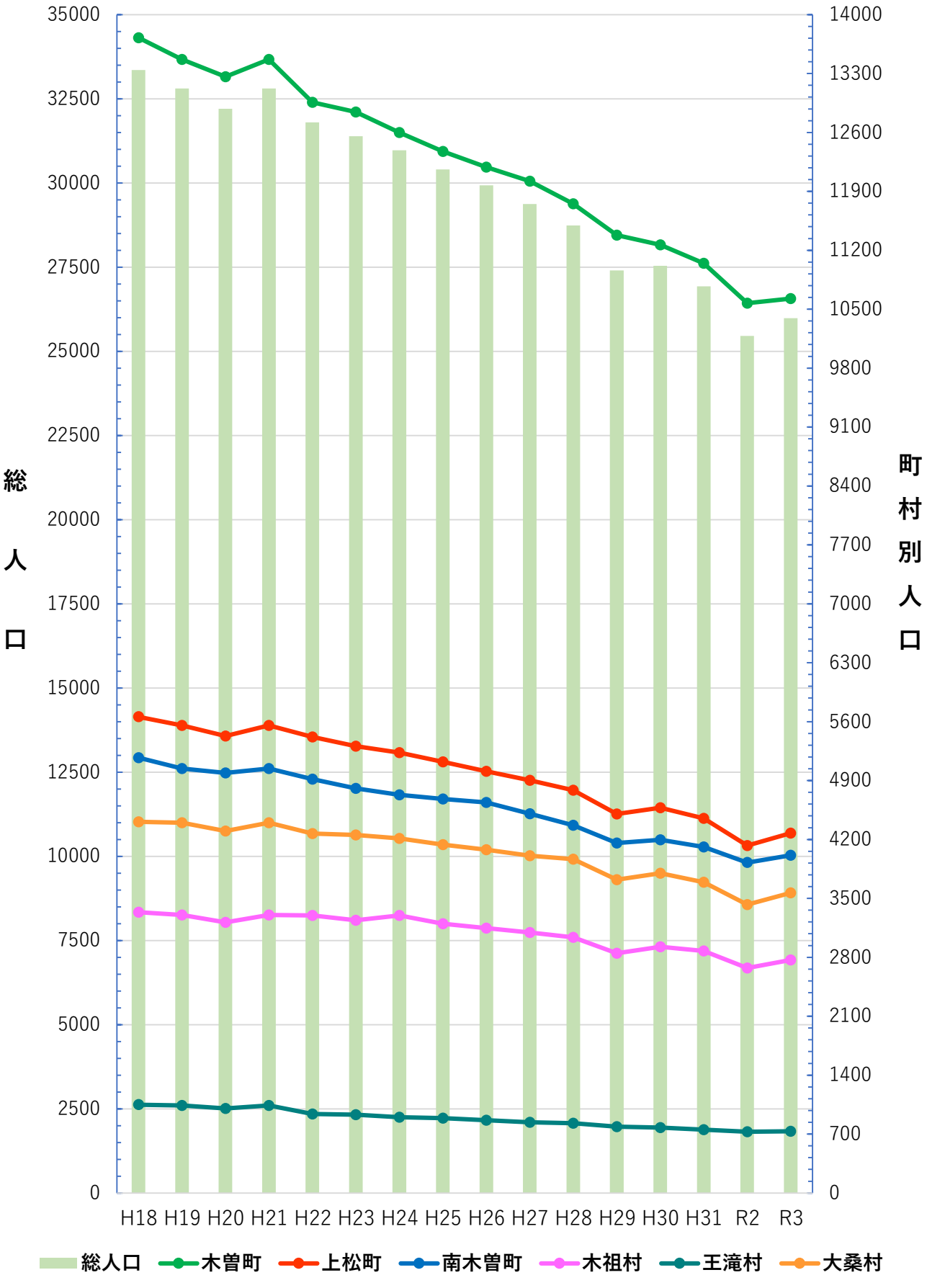
町村の推移

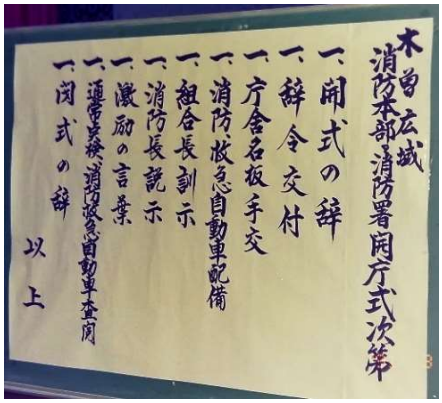

明治
大正
昭和
平成
西筑摩郡
木曽郡
(S43.5.1)
福島村
岩郷村
上田村
黒川村
福島村
(M7.11.7)
新開村
(M7.11.7)
福島町
(M26.5.27)
木曽福島町
(S42.4.3)
宮ノ越村
原野村
日義村
(M7.11.7)
木曽町
(H17.11.1)
末川村
西野村
開田村
(M7.9.7)
末川村
西野村
(M14.2.14)
開田村
(M22.4.1)
黒沢村
三尾村
三岳村
(M7.9.7)
上松村
荻原村
駒ケ根村
(M7.11.7)
上松村
小川村
荻原村
(M14.6.18)
駒ケ根村
(M22.4.1)
上松町
(T11.9.1)
町制施行
上松町
藪原村
荻曽村
菅　村
木祖村
(M7.9.7)
藪原村
小木曽村
菅　村
(M16.11.10)
木祖村
(M22.4.1)
木祖村
王滝村
王滝村
須原村
長野村
殿　村
野尻村
大桑村
(M7.11.7)
須原村
長野村
殿　村
野尻村
(M14.3.12)
大桑村
(M22.4.1)
大桑村
与川村
三殿村
柿其村
読書村
(M7.9.7)
妻籠村
蘭　村
吾妻村
(M7.11.7)
南木曽町
(S36.1.1)
南木曽町
田立村
山口村
山田村
(M7.9.7)
田立村
山口村
山口村
馬籠村
湯舟沢村
神坂村
(M7.9.7)
(S33.10.14)峠・馬籠・荒町の境界変更
中津川市
(S33.10.15)
中津川市
(H17.2.13)
奈良井村
贄川村
楢川村
(M22.4.1)
塩尻市
(H17.4.1)
奈川村
南安曇郡へ編入
(S23.6.1)
松本市
(H17.4.1)

人口の推移（平成17年以前）



人口の推移（平成18年以降）




本日
広域
消防本部・消防署庁式次第
一、開式の辞
一、辞令交付
一、庁舎名板手交
一、消防・救急自動車配備
一、組合長訓示
一、消防長訓示
一、激励の言葉
一、通常点検・消防・救急自動車査閲
一、閉式の辞
以上

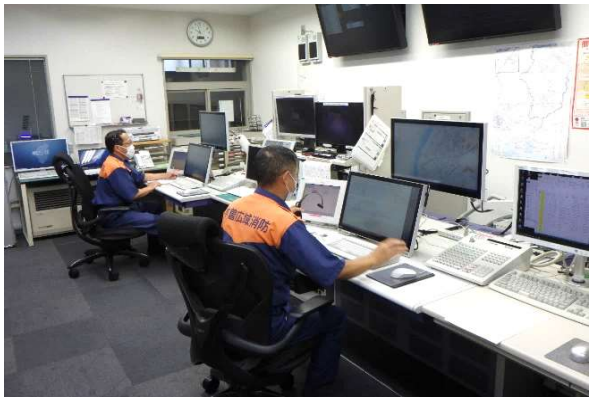
RESCUE
KISO

FIRE DEPARTMENT
KISO

木曽消防綱 引クラブ

119

木曽救助



木曽広域消防本部 30 周年記念誌

令和4年3月31日　印刷

令和4年3月31日　発行

編集／木曽広域消防本部　総務係

発行／木曽広域消防本部

〒397-0001　長野県木曽郡木曽町福島 3737 番地

TEL　0264-24-3119　FAX　0264-24-2929

印刷／有限会社ユープリント